八尾市文化財調査報告21
平成元年度公共事業

八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告書Ⅱ

1990.3

八尾市教育委員会

はじめに

八尾市は古代から近世に至るまで大和と難波を結ぶ交通の要路としてわが国の歴史上重要な役割を果たしてきた土地であり、全国有数の遺跡の宝庫である。八尾市教育委員会では、近年急速な都市化の波に変貌しつつある現状において、古文化財の保存と顕彰に努めたいと願っているところであるが、限られた予算の範囲では対応にも限界があることは否めない。しかしながら平成元年度においては、(財) 八尾市文化財調査研究会とともに実施した芝塚古墳や跡部遺跡、八尾南遺跡等の発掘調査で貴重な遺構、遺物が出土し、埋蔵文化財の重要性を改めて痛感させられた次第である。本書は、これら遺跡保存の為の基礎資料として市域の公共事業関連工事に先だち実施した小規模な遺構確認調査を収録したものであるが、このような地道な調査成果の蓄積が、貴重な文化財の発見につながっていることもまた事実である。本書が今後の埋蔵文化財保存、活用の基礎資料として将来にわたって活用されることを願ってやまない。

平成2年3月31日

八尾市教育委員会
教育長　西　谷　信　次

例　　言

1．本書は、平成元年度に八尾市教育委員会が公共事業等に伴って八尾市内各遺跡で実施した遺構確認調査の報告書である。

2．発掘調査は八尾市教育委員会文化財室（室長　森田康夫）が各事業主体に協力を求めて実施した。

3．調査は八尾市教育委員会文化財室の米田敏幸が担当し調査にあたった。

4．本書には、巻末に記載した調査一覧表のうち、特に成果のあった調査についてその概要を収録した。

5．調査および遺物整理に際しては、下記の諸氏の参加協力を得た。

　調査員　　岡田清一　徳谷尚子

　調査補助員　横山妙子　益田夏雄　松浦明美

6．本書の作成にあたっては、米田、岡田、徳谷が執筆を分担し、編集を行なった。また昭和63年度の調査報告については元職員　近江俊秀（現橿原考古学研究所員）の個人的な協力を得、執筆を依頼した。

目　　次

1．中田遺跡(88－393)の調査……1
2．恩智遺跡(88－509)の調査……8
3．郡川遺跡(89－032)の調査……14
4．中田遺跡(89－221)の調査……22
5．郡川遺跡(半銅池)の調査……24
6．大竹西遺跡(89－397)の調査……26
7．郡川遺跡(89－399)の調査……30
平成元年度公共事業関係調査一覧表……33

挿　図　目　次

第1図　調査地周辺図(S＝1／5000)……1
第2図　調査区設定図(S＝1／200)……2
第3図　土層断面図(S＝1／40)……2
第4図　調査区平面図(S＝1／40)……3
第5図　井戸断面図(S＝1／40)……4
第6図　井戸埋土出土遺物(S＝1／4)……5
第7図　井戸埋土E層出土遺物(S＝1／4　1／2　1／3)……6
第8図　出土遺物(S＝1／4　1／3)……7
第9図　調査地周辺図(S＝1／5000)……8
第10図　調査区設定図(S＝1／600)……9
第11図　A・B地区土層断面図(S＝1／80)……10
第12図　C・D地区土層断面図(S＝1／80)……11
第13図　E地区土層断面図(S＝1／80)……12
第14図　B・E区平面図(1／80)……13
第15図　調査地周辺図(S＝1／13000)……14
第16図　調査区設定図(S＝1／2000)……15
第17図　各グリット土層断面図(S＝1／40)……19～20
第18図　出土遺物実測図(S＝1／4)……21
第19図　調査地周辺図(S＝1／13000)……22
第20図　調査区設定図(1／600)……23
第21図　土層断面図(1／40)……23

第22図　調査区平面図（S＝1／60）……23
第23図　出土遺物実測図（S＝1／4）……23
第24図　調査地周辺図（S＝1／13000）……24
第25図　調査区設定図（S＝1／1000）……25
第26図　各自グリット土層断面図（1／40）……25
第27図　調査地周辺図（S＝1／13000）……26
第28図　調査区設定図（S＝1／2400）……27
第29図　No 1 グリット東壁土層断面図（S＝1／60）……28
第30図　No 2 グリット東壁土層断面図（S＝1／60）……29
第31図　出土遺物実測図（S＝1／4）……29
第32図　調査地周辺図（S＝1／13000）……30
第33図　調査区設定図（S＝1／1000）……31
第34図　各グリット土層断面図（S＝1／40）……31
第35図　出土遺物実測図（S＝1／4）……32

図　版　目　次

図版 1　中田遺跡（88－393）井戸検出状況　井戸枠全景
図版 2　中田遺跡（88－393）井戸枠外部状況　井戸枠内遺物出土状況
図版 3　恩智遺跡（88－509）E 地区トレンチ全景　C 地区トレンチ全景
図版 4　郡川遺跡（89－032）No 1 グリット　No 2 グリット
図版 5　郡川遺跡（89－032）No 4 グリット
図版 6　郡川遺跡（89－032）No 4 グリット　No 5 グリット
図版 7　郡川遺跡（89－032）No 7 グリット　No 8 グリット
図版 8　郡川遺跡（89－032）No 8 グリット　No 9 グリット
図版 9　郡川遺跡（89－032）No10グリット
図版10　郡川遺跡（89－032）No11グリット
図版11　郡川遺跡（89－032）No12グリット　出土遺物
図版12　中田遺跡（89－221）土坑検出状況　土坑断面
図版13　郡川遺跡（半銅池）No 1 グリット　No 3 グリット
図版14　大竹西遺跡（89－397）No 1 調査区全景　No 2 調査区全景
図版15　大竹西遺跡（89－397）No 1 調査区第 1 遺構面　No 1 調査区遺物出土状況
図版16　大竹西遺跡（89－397）出土遺物

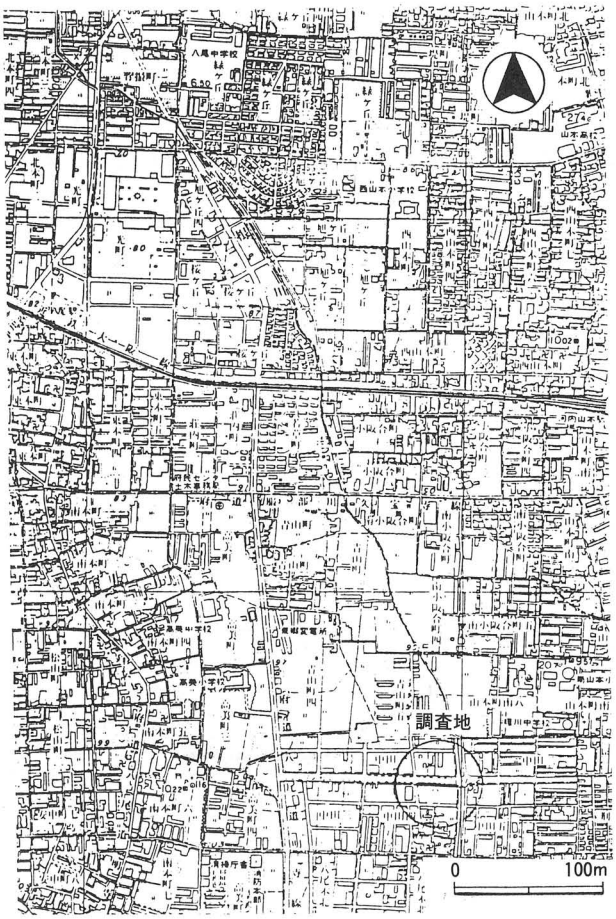
1．中田遺跡(63-393)の調査

調査地　　中田４丁目

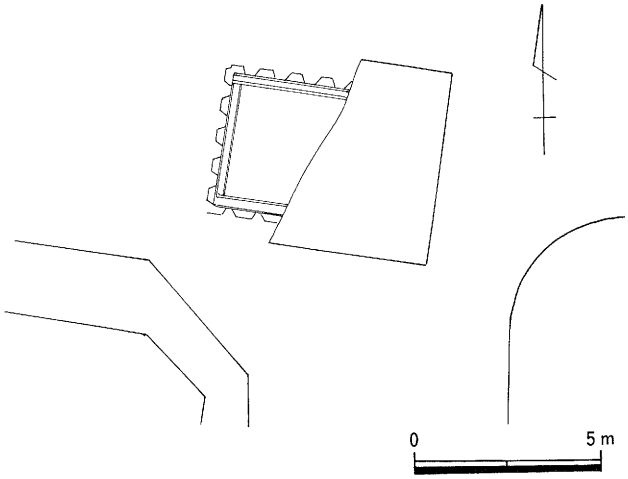
調査期間　　平成元年２月22日～23日

1．調査概要

中田遺跡は八尾市ほぼ中央に位置する弥生時代から中世に至るまでの複合遺跡である。今回の調査は公共下水道立坑掘削に伴う発掘調査である。調査は立坑部分5.6×3.8mを対象として実施した。調査地の基本層序は厚さ約40cmの盛土以下、灰褐色砂質土(層厚約40cm)、暗灰褐色粘質土(層厚約40cm)が堆積し、中世の包含層であく黒灰色粘土(層厚約60cm)に達する。検出した遺構には、青灰色微砂を掘り込む井戸一基がある。この井戸は東西約３mで南側は調査区外に及ぶものの南北２m以上の掘り形を有する。井戸枠本体は直径60cm、高さ70cm前後の桶を３段組んだもので、埋土は６層に分けられる。第Ａ層は青灰色砂礫混粘質土で、同層上部からは、中・近世の瓦をはじめ、砥石などが多量に出土した。またこの層内には多数の炭化物を含んでおり、出土遺物の中にも火を受けたものが多い。第Ｂ層は淡緑灰色砂礫混粘質土、第Ｃ層は暗灰色粘質礫砂から遺物量こそ少ないが、木片、植物遺体が多量に出土している。第Ｅ層は黄褐色粘質土で自然に堆積した土層とは考え難く、井戸を廃絶する際に湧水層をふさぐ為に埋められた土と考えられる。またこの層からは、体部の約半分を打ち欠いた灰緑色系のヘソ皿２枚と、底部を穿孔した土師皿１枚と共に直径約22cm、器高約15cm、底径20cmの木製の桶が出土した。



第１図　調査地周辺図(１／5000)

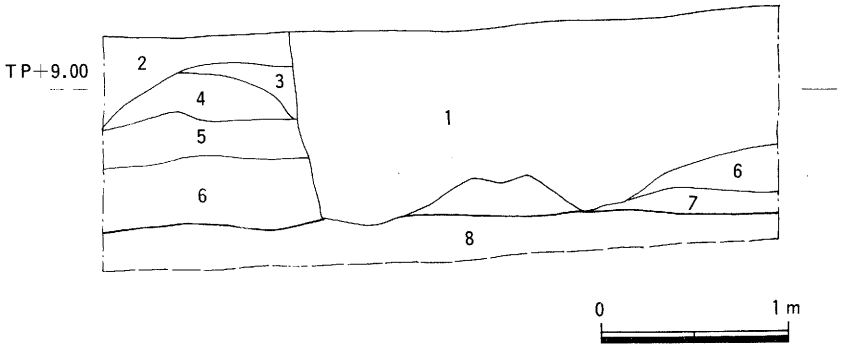


第２図　調査区設定図（１／200）

またこの桶の中には口径２cm、器高3.5cmの灰色のミニチュア土器一点が埋められていた。これらの遺物は、井戸廃絶の際のまつりに関係する遺物であると考えられ、当時の井戸祭祀を考える上でも重要な資料である。またこの井戸の時期は井戸埋土第Ｅ層から出土した土師皿の型式から15Ｃの中頃のものと考えられる。

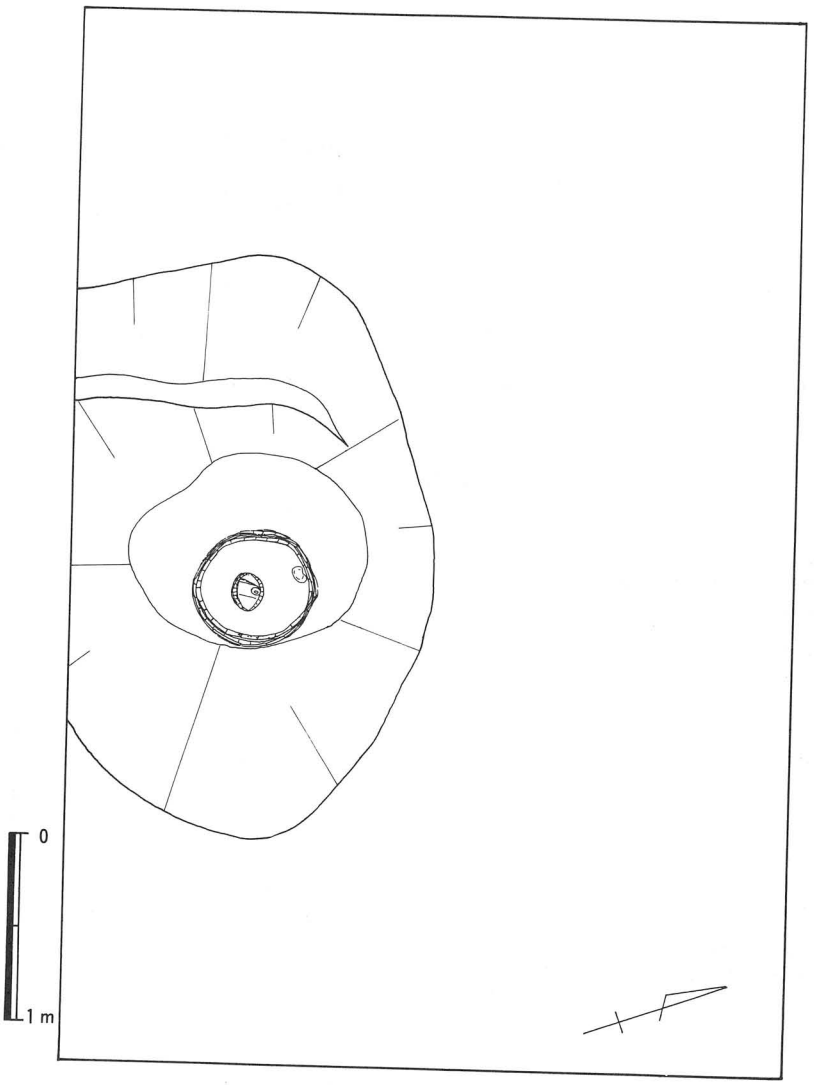
２．まとめ

今回の調査では小面積にも係わらず15Ｃ中頃の井戸をほぼ完全な形で検出し発掘する事ができた。現在15Ｃ代の井戸は全国各地で数多く報告されているが、桶を３段積み重ねて井戸枠にする例はさほどなく、また、当時の井戸祭祀の在り方がある程度復元できるのは全国でもめずらしい例であろう。

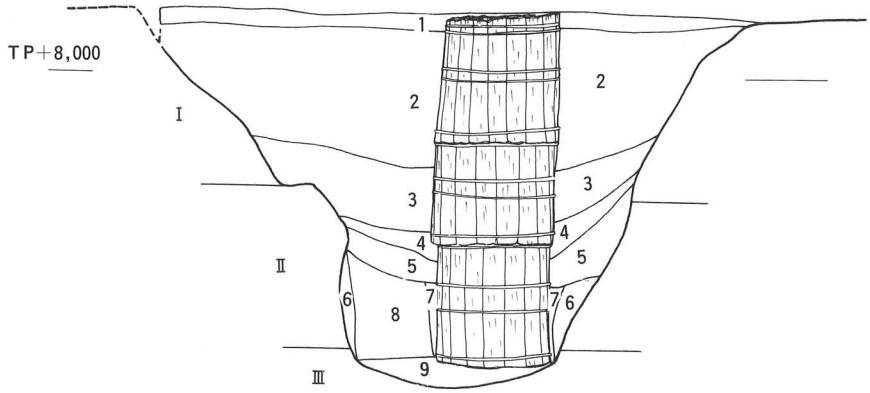


第３図　土層断面図（１／40）

① 攪乱
② 盛土
③ 耕土
④ 灰褐色砂質土
⑤ 暗灰褐色粘質土
⑥ 黒灰色粘土
⑦ 灰褐色砂質土
⑧ 青灰色微砂



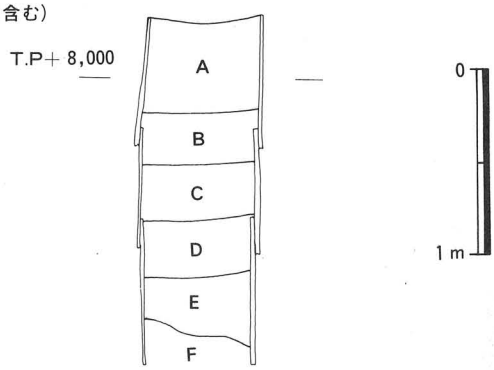
第４図　調査区平面図（１／40）



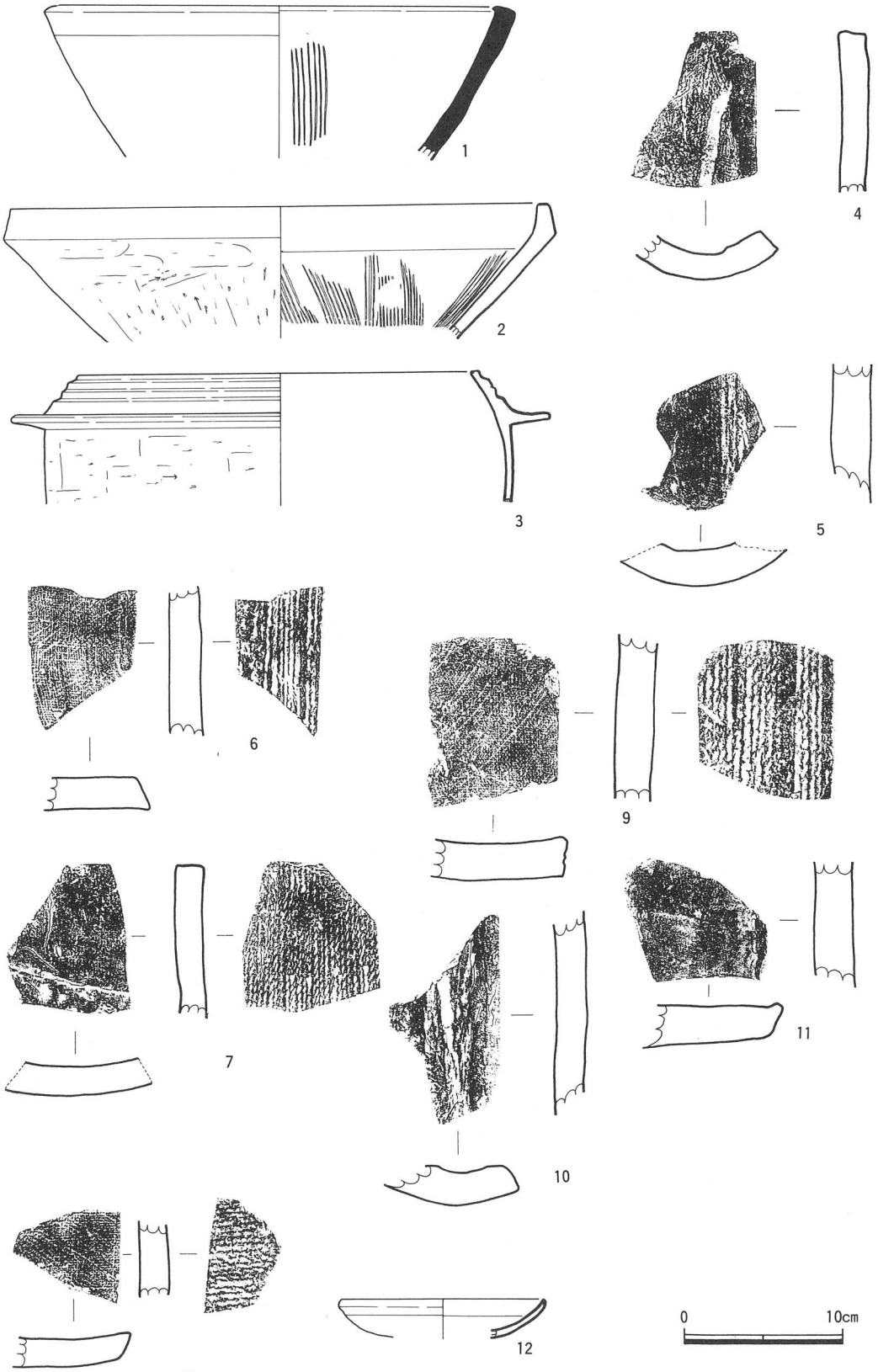
掘 形
1 暗茶灰色粘質土
2 暗茶灰色粘土Ⅰ(青灰色シルトをブロック状に含む)
3 暗茶灰色粘土Ⅱ(青灰色シルトを多量に含む)
4 茶褐色粘質土
5 青灰色シルト(茶褐色粘質土をブロック状に含む)
6 青灰色粘土(張り土)
7 黄緑色粘質土
8 暗褐色粘質土
9 青灰色細砂

Ⅰ 青灰色微砂
Ⅱ 青灰色細砂
Ⅲ 灰色粗砂

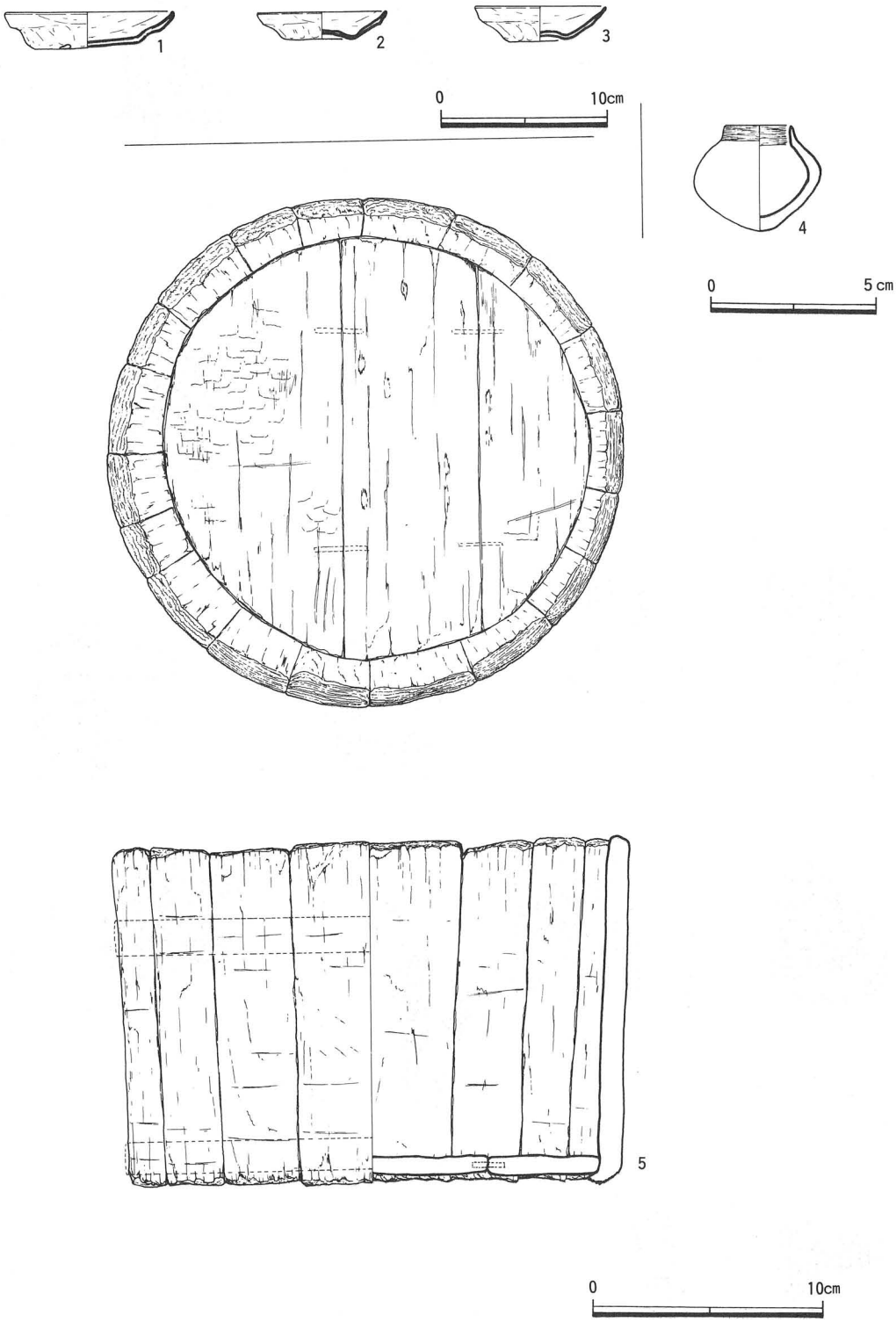
埋 土
A 青灰色砂礫混粘質土
B 淡緑灰色砂礫混粘質土
C 暗灰色粘質礫砂
D 暗灰色粘土
E 黄緑色粘質土(掘形7層)
F 青灰色細砂(掘形9層)



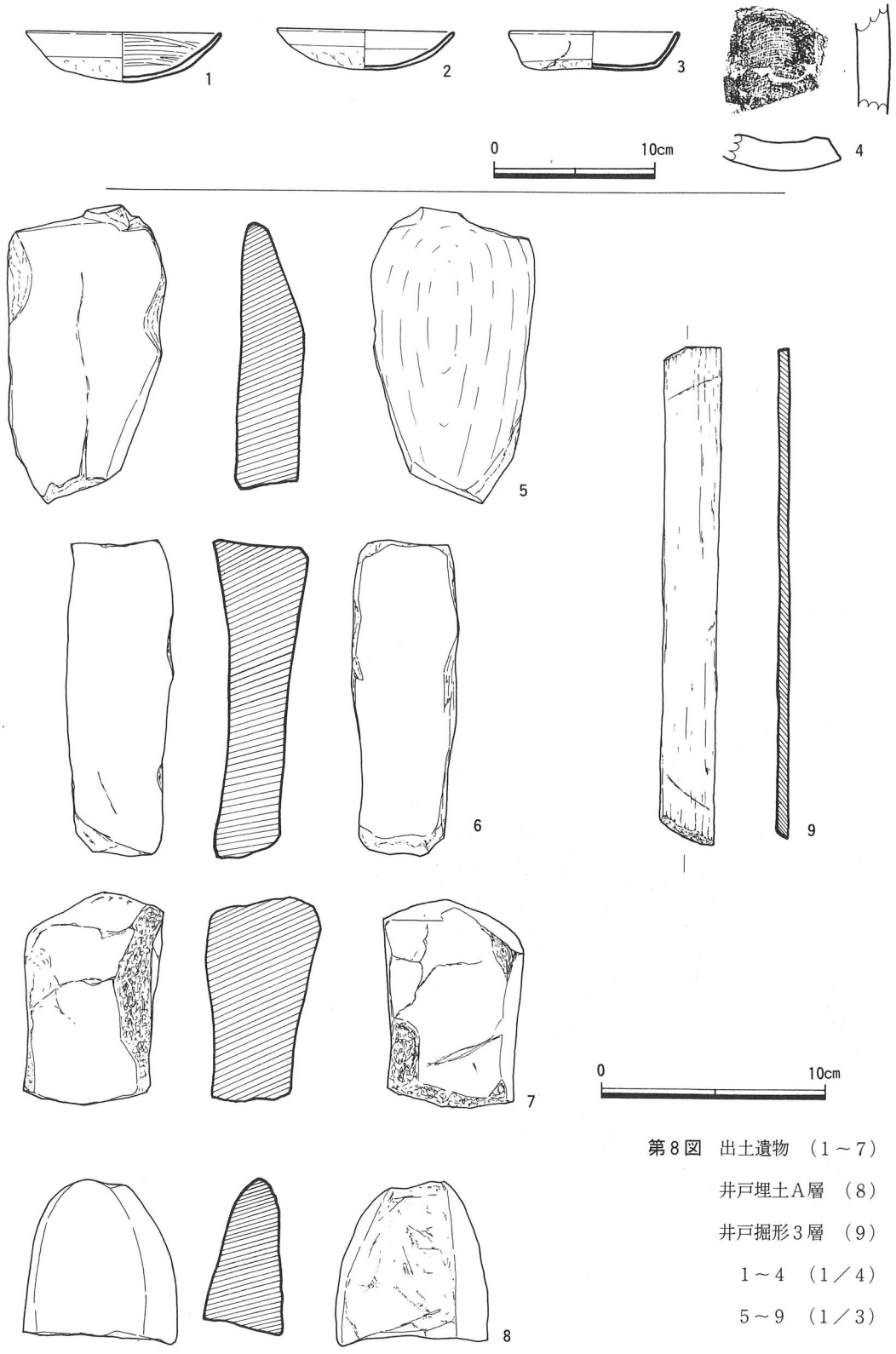
第5図　井戸断面図(1／40)



第6図　井戸埋土出土遺物(1／4)(12　C層)(1～11　A層)



第7図　井戸埋土E層出土遺物　1～3（1／4）　4（1／2）　5（1／3）



第８図　出土遺物　（１～７）

井戸埋土Ａ層　（８）

井戸掘形３層　（９）

１～４　（１／４）

５～９　（１／３）

2．恩智遺跡(63-509)の調査

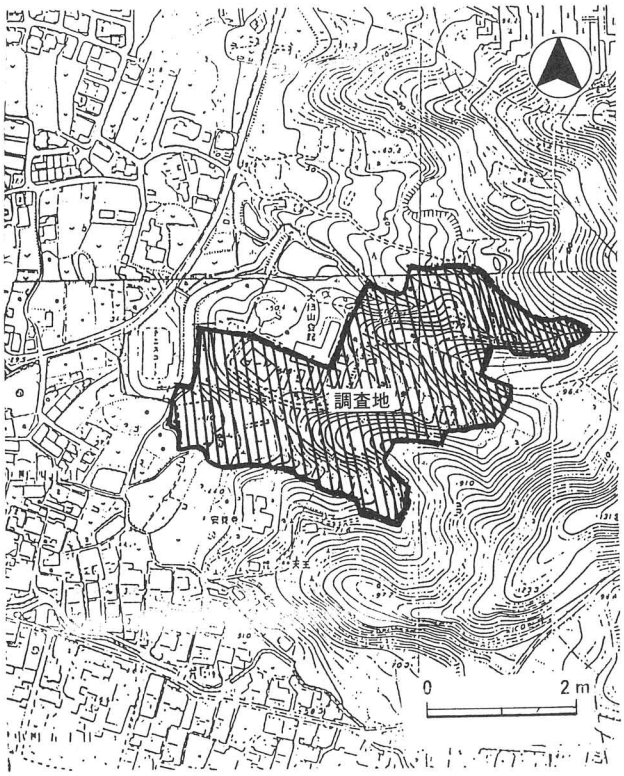
調査地　　八尾市恩智中町４丁目55他

調査期間　　平成元年３月２日～16日

1．調査概要

本調査は、仮称青少年野外活動施設建設に伴って実施した遺構確認調査である。本調査地西麓は縄文から弥生中期の遺跡として有名な恩智遺跡にあたり、また調査地北側の尾根上には古墳時代の集落跡、南側の尾根からは銅鐸が出土しており当該地においても何等かの遺構が検出されることが予想された。

調査は、尾根上、南斜面、平坦面にそれぞれ幅１ｍのトレンチを設定し人力にて地山まで掘削を行い遺構の有無及び土層の堆積状況の確認を行った。以下各地区毎に報告する。

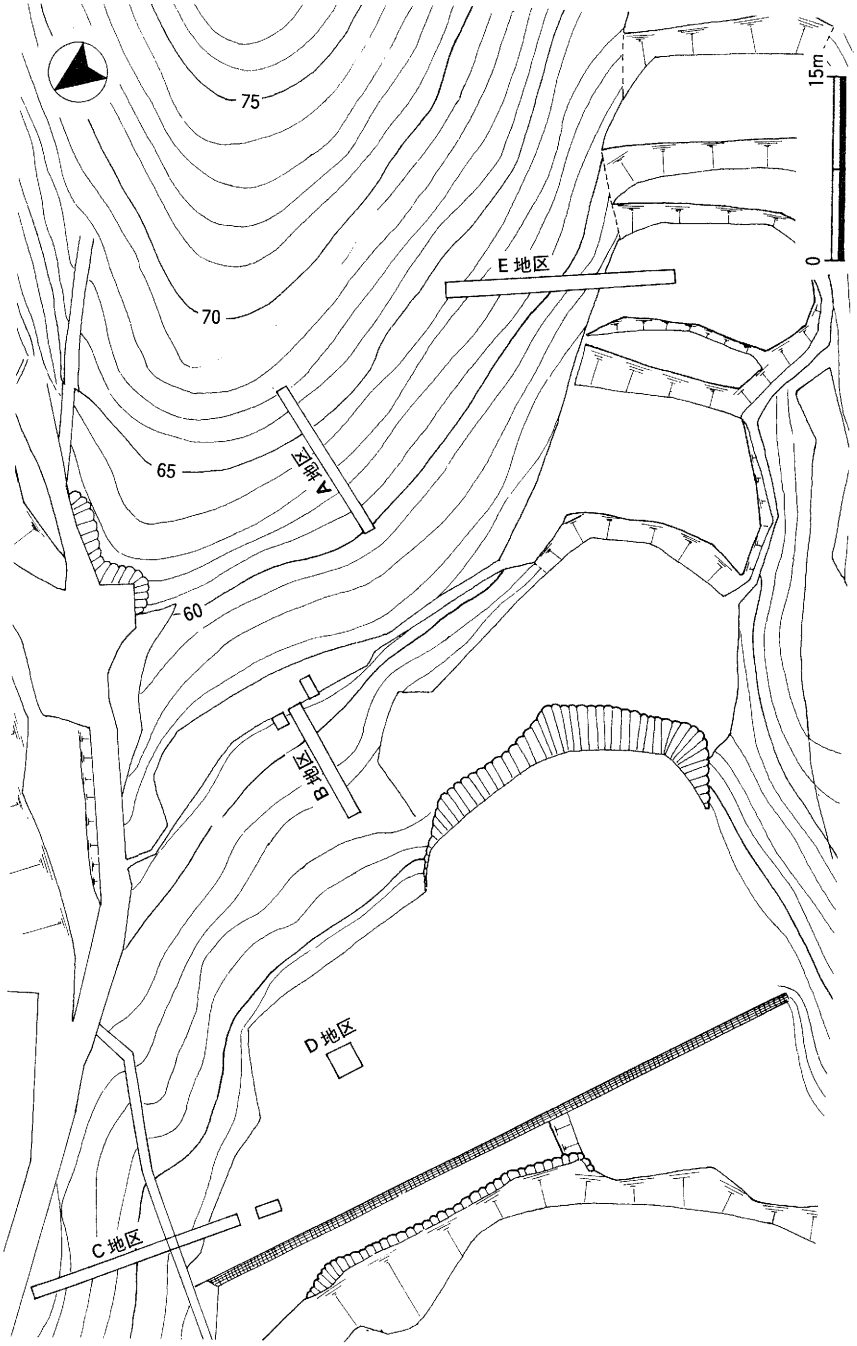


第９図　調査地周辺図(１／5000)

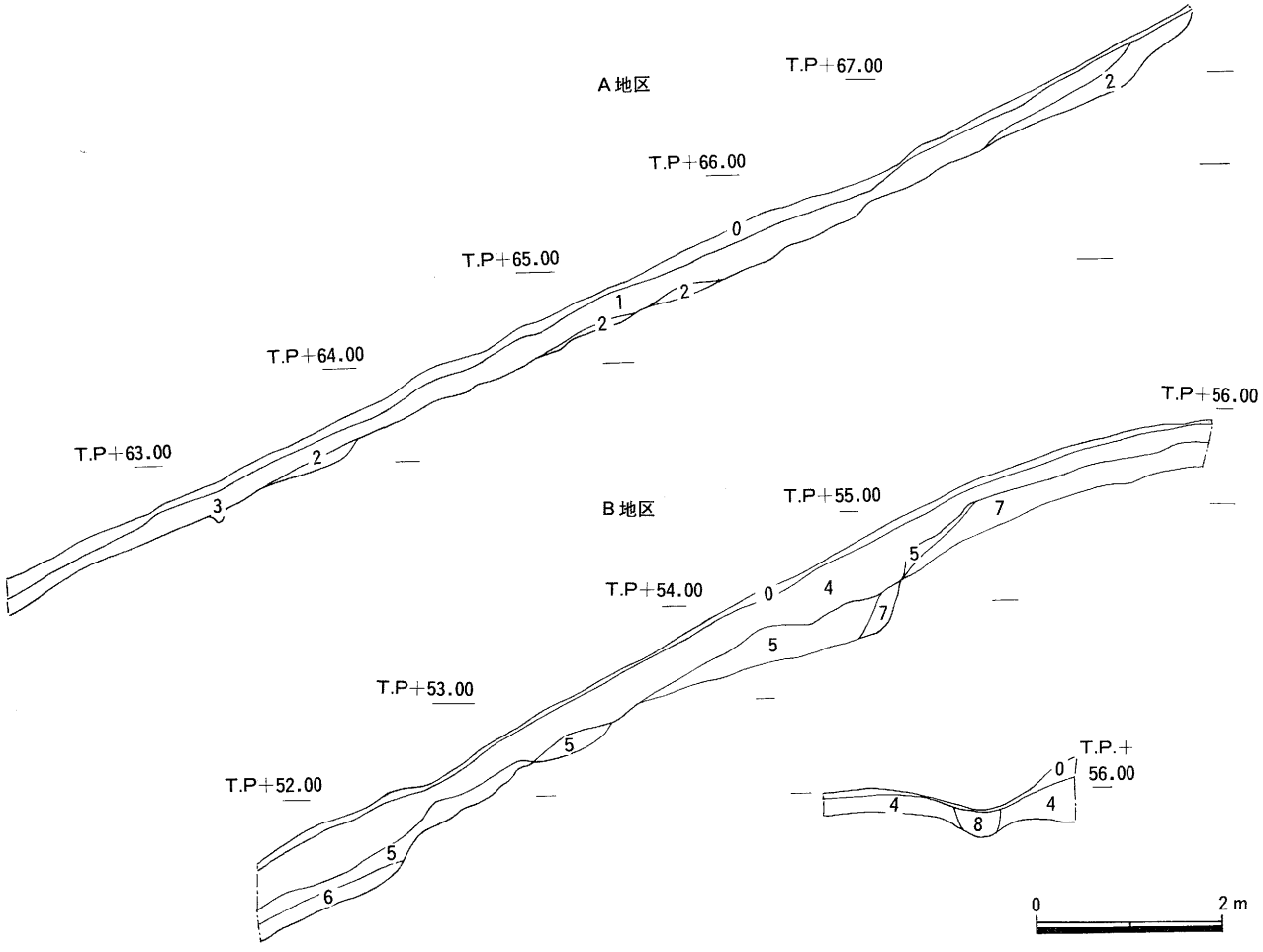
Ａ地区　尾根筋に沿って１×14ｍのトレンチを設定した。表土下約40cmで地山に達しその間、黄褐色れき混じり粘質土、黄灰色砂質土、黄褐色粘土の堆積を認めたが、遺物はいずれの層からも出土しなかった。

Ｂ地区　調査地北側の平坦面に１×15ｍのトレンチと１×1.4ｍ、１×1.7ｍのグリットを設定し調査を行った。調査区東側は凹凸の激しい地山面に赤褐色粘土を張り土し狭い平坦面を３段作り出す。また南側のグリットからは溝一条が検出されたがこの溝は表土直下より掘り込まれており極めて新しい時期のものと思われる。遺物は、２層暗黄褐色礫混じり粘質土、３層黄褐色礫混じり粘質土より土師器片、中国陶磁片が若

干出土した。



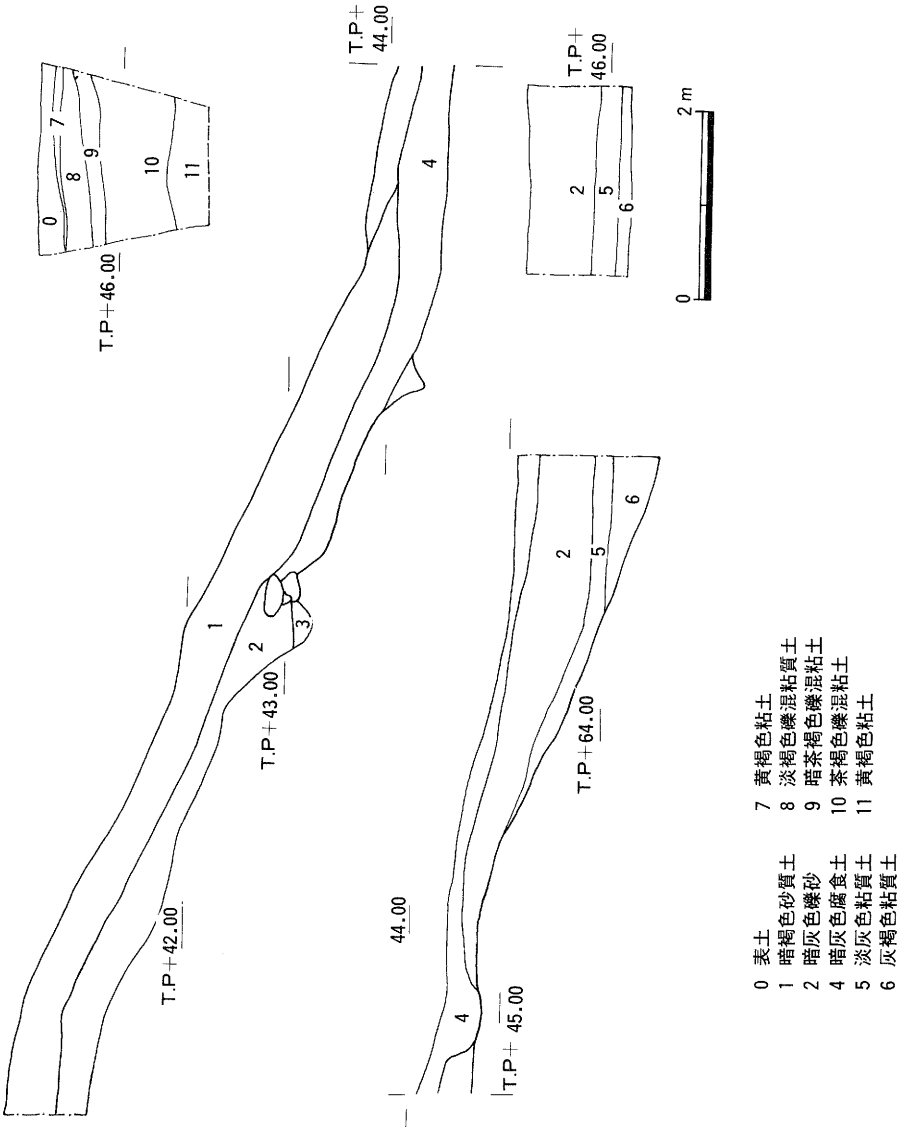
第10図　調査区設定図（1／600）



第11図　A・B地区土層断面図（S＝1／80）

Ｃ地区　調査地北側の南斜面から平坦面にかけて１×23mのトレンチを設定し調査を行った。斜面部分は厚さ約１ｍにわたり１層暗褐色砂質土、２層暗灰色れき砂の堆積が認められ、２層より拳大のれきに混じって埴輪片や弥生土器片が出土した。また、斜面に直行して東西に走る花こう岩の石組みを持つ溝一条を検出した。

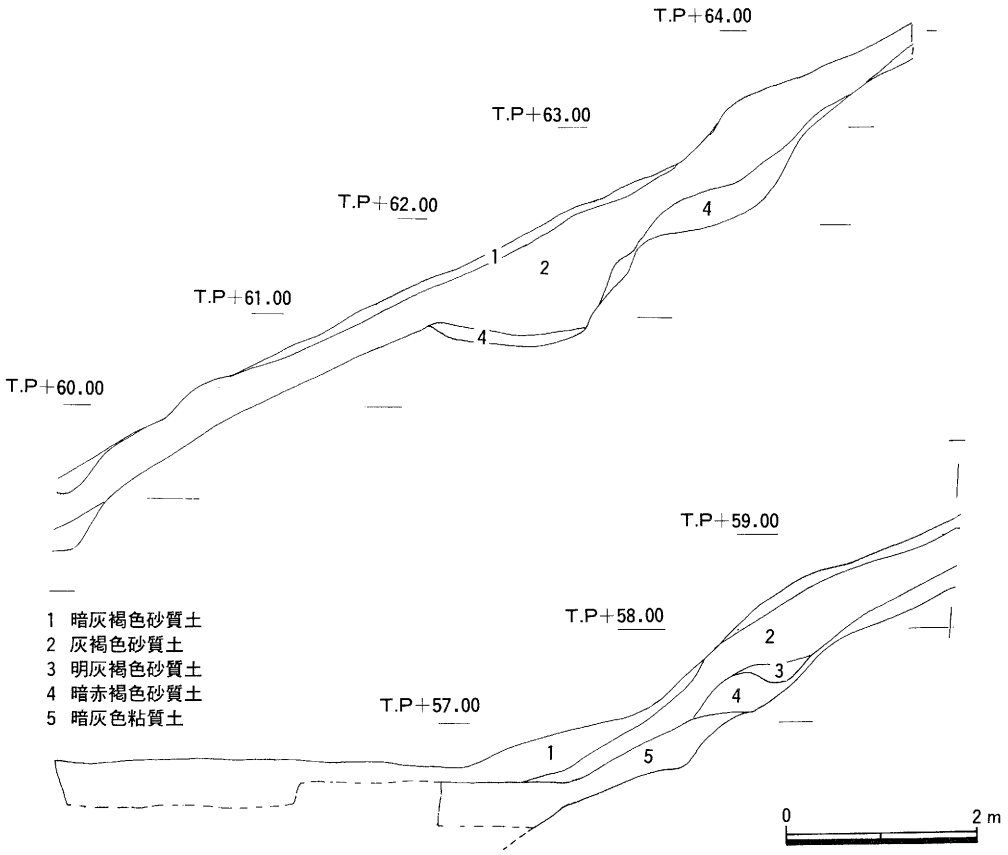
平坦面部分は、淡灰色粘質土と灰褐色粘質土の堆積が認められ灰褐色粘質土上面は水田面となる可能性も考えられる。



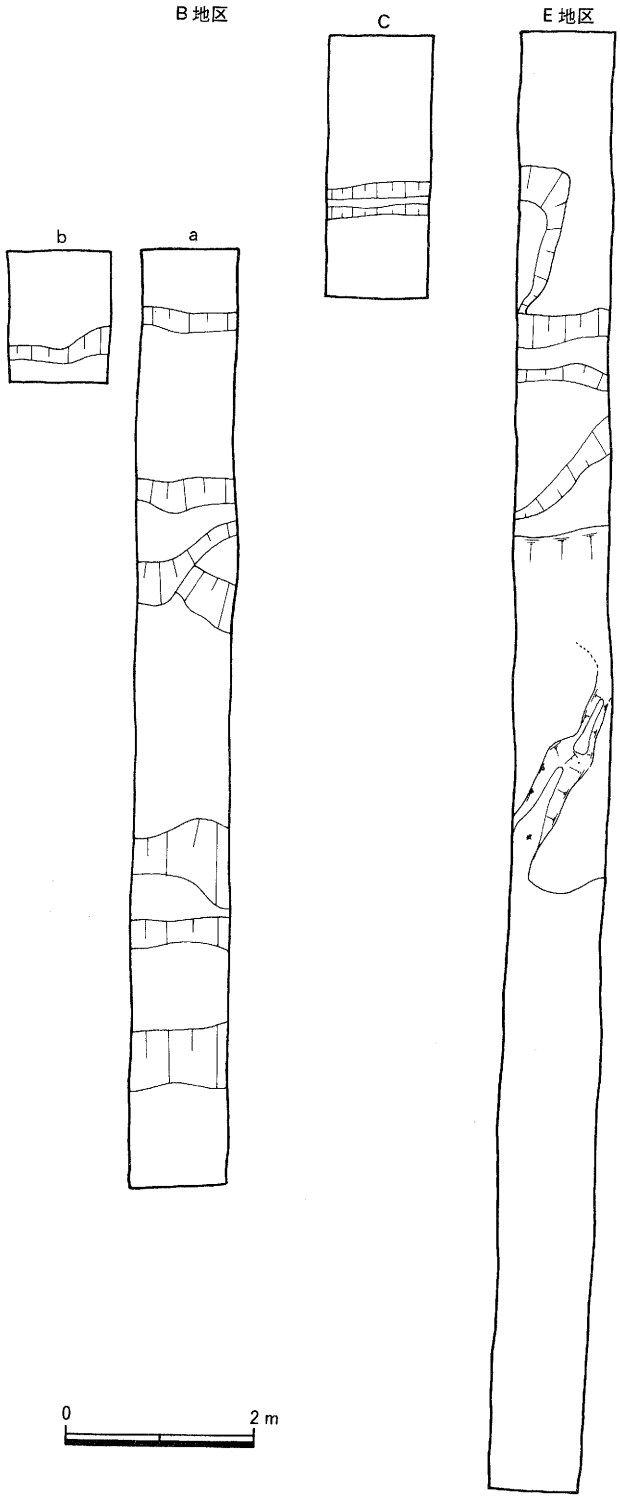
第12図　Ｃ・Ｄ地区土層断面図（Ｓ＝１／８０）

D地区　平坦面やや東側に２×２ｍのグリットを設定し地表下約２ｍまでの土層の堆積状況を確認した。表土以下１層黄褐色粘土、２層淡褐色れき混じり粘質土、３層暗茶褐色れき混じり粘土、４層茶褐色れき混じり粘土、５層黄褐色粘土の堆積が認められ、２－４層の堆積状況は西へやや傾斜しており、またこれらの層はいずれも拳大のれきを含む。

E地区　尾根筋から南斜面に１×24ｍのトレンチを設定し調査した。この斜面は他の地区と比べて最も凹凸が激しい。土層は主に灰褐色砂質土と暗赤褐色砂質土の２層に分層され遺物は上層より近世の瓦や土器が若干出土したのみである。また、このトレンチでも斜面に直行する溝一条と土坑一基を検出した。



第13図　E地区土層断面図（1／80）



第14図　B，E区平面図（1／80）

2．まとめ

今回の調査では遺物量こそ少なかったが、生活の上で利用価値のほとんどない急斜面より溝、土坑を検出することができた。このことは、古代における山岳地の土地利用を考える上でも重要な問題である。また、調査地南側の谷部は水田として利用されていたものと思われ、古代より開始された谷部の開発の歴史を考える上でも興味深い。（近江）

3．郡川遺跡(01-032)の調査

調査地　　教興寺及び黒谷の各一部

調査期間　　平成元年８月３日～23日

１．歴史環境

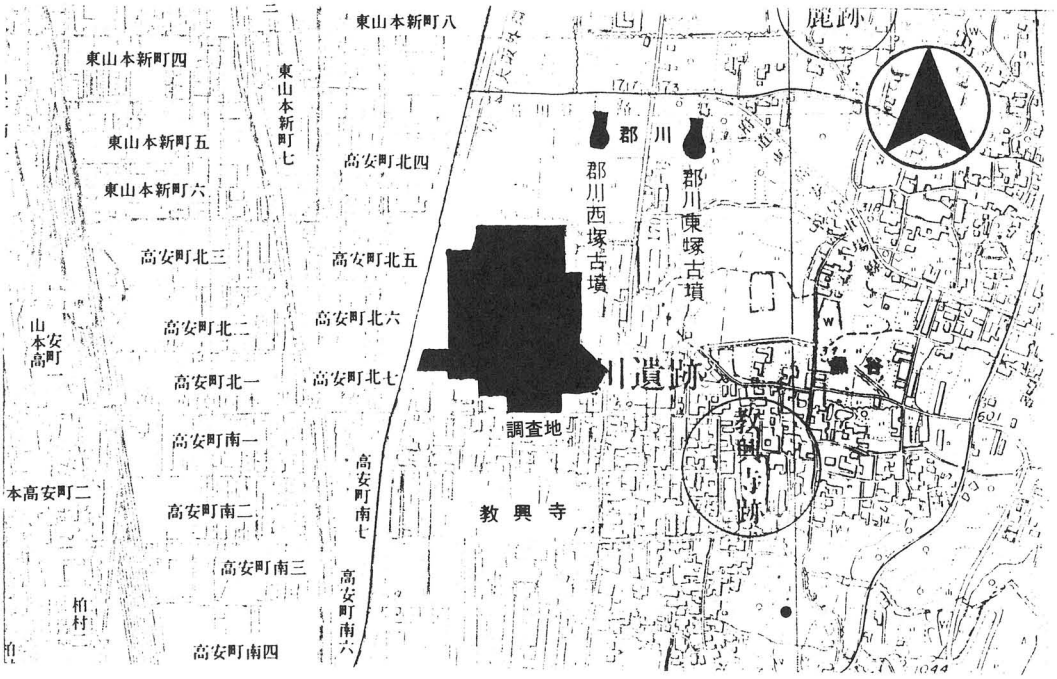
教興寺は、飛鳥時代の豪族、秦川勝創建と伝えられる。このことから、この付近には、高安古墳群や郡川遺跡等の古代の遺跡が多く存在する。

２．調査の概要

調査対象地は、教興寺の西北方、東高野街道と外環状線に挟まれた区域68253㎡で遺跡の範囲を確定する為、区域内12箇所に２ｍ×２ｍの試掘坑を設定した。以下に各調査区の概要を記す。

第１調査区

①基本層序



第15図　調査地周辺図（１／13000）

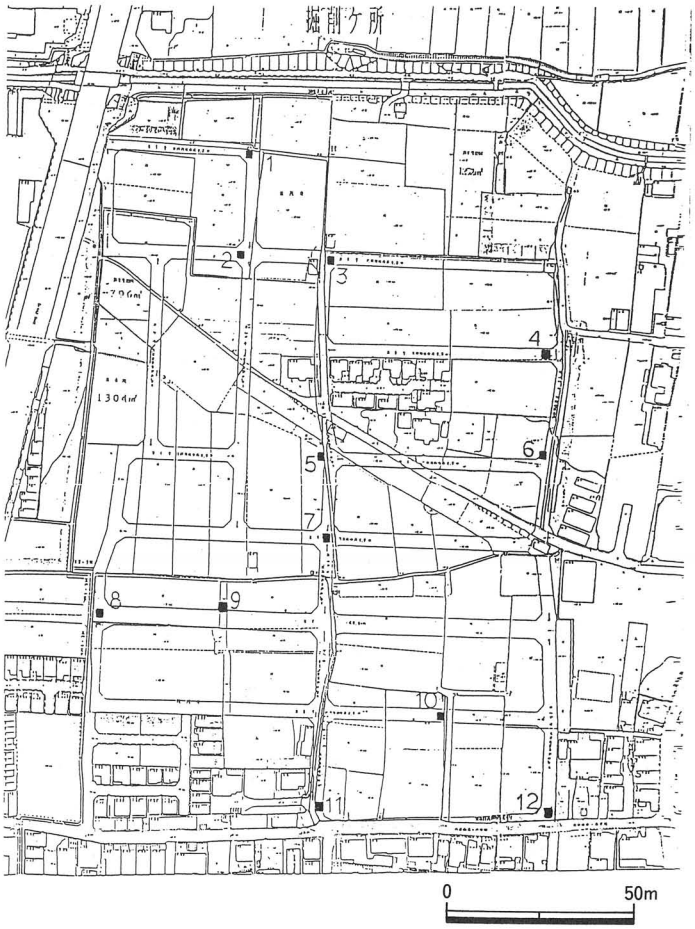
耕土以下、２層～４層は砂質土、５層微砂、６層シルト、７層粘質土、以下13層まで砂とシルトの互層で湧水多く、灰色細砂混じり青灰色粘土が堆積する。

②出土遺物

10～13層より中世の土器細片が若干出土した。

③調査結果

地表以下1.5ｍからは湧水が著しい。遺物は、自然河川跡と思われる10～12層の砂層より出土している。



第16図　調査区設定図（１／2000）

第２調査区

①基本層序

厚さ0.3ｍの耕土以下２層～４層は砂質土または微砂、５層粘土、６層から９層までは、砂とシルトの互層で湧水がある。

②出土遺物

遺物量は非常に少なく、６・７層の砂層より中世の土器細片が出土。

③調査結果

地表下0.6m付近４層目の微砂を除去したところは、中～近世の水田遺構と思われる。以下は河川堆積である。

第３調査区

①基本層序

耕土以下２ｍまでの層序は、３層～６層まで砂質土または細砂で、７層粘質土、８層シルト、９層粘土、10層微砂が堆積する。

②出土遺物

4層から近世の瓦、陶器細片、5層からは、古墳時代から中世の土器細片がそれぞれ若干出土。

③調査結果

地表下1.2～2.0までのシルト、粘土、微砂からは全く遺物は出土しなかった。またこれらの互層の堆積状況から旧河道であった可能性が考えられる。

第4調査区

①基本層序

耕土以下2mまでの層序は、2層～4層がれき混土～砂質土が堆積する。5層は粘質土で、6層れき混粗砂で湧水し、以下7～9層迄砂と粘土の互層である。

②出土遺物

3層から近世の陶器細片、4層から中世の土師器片を若干出土した。8層からは、弥生時代後期の高杯脚、甕の体部片が一点ずつ出土した。

③調査結果

4層をベースとする東西に伸びる幅0.2～0.3m深0.1～0.2mの鋤溝3条を検出したのみである。

第5調査区

①基本層序

耕土以下2mまでの層序は、2・3層が砂質土、4層粘質土、5層、6層は砂が厚く堆積し、以下砂と粘土の互層となる。

②出土遺物

4層から中世と思われる羽釜の破片数点出土、5・6層からは、多数の須恵器片を含む包含層の存在を確認した。

③調査結果

地表下0.7mの4層目に中世の堆積層を確認した。地表下0.8～1.3mの5・6層で出土した多数の須恵器より当地点の東上方に古墳時代の遺構の存在する可能性が考えられる。

第6調査区

①基本層序

表土以下2mまでの層序は、2～5層まで砂質土が堆積し、6層れき混り粘質土7層礫混り細砂が堆積する。6層には土師器片が出土している。

②出土遺物

2～5層は中世の遺物が出土したが、その殆どが細片で非常に少ない。6層には土師器片が

出土している。

③調査結果

地表以下2.0m前後のところで、径0.1～0.2mの円礫が集積しているのを検出した。

第７調査区

①基本層序

耕土以下２ｍまでの層序は、２層～５層まで砂質土、６層～７層は粘質土、８層暗灰色微砂以下は砂と粘土が堆積する。

②出土遺物

４層から宋銭および中世の土器片、９層からは弥生時代後期の土器が数点出土した。

③調査結果

地表下0.5m～0.8mに中世遺物を若干含む層があり、地表下1.6～1.8mの９層堆積土中に弥生時代の土器片が数点出土していることから考えて、付近に弥生時代の集落域の発見が期待できる。

第８調査区

①基本層序

厚さ0.2mの耕土以下２～４層は砂質土、５層～７層は粘質土で以下地表下２ｍまで砂と粘土の互層であるが湧水はない。

②出土遺物

２～４層より近世の遺物細片が少量出土。

③調査結果

どの土層からも、顕著な遺物包含層は認められなかった。

第９調査区

①基本層序

耕土以下２・３層は砂質土、４・５層は粘土とシルトで、６層以下は砂と粘土の互層である。

②出土遺物

３層より中世土器片が少量出土。

③調査結果

地表下約1.0mの５層微砂シルト上面で水田遺構と思われる土層を検出した。８層の粘土内に植物遺体がみられる。

第10調査区

①基本層序

耕土以下２ｍまでの層序は、２層砂質土、３層礫混土、４層粘質土、５層微砂、６層粘土、７層の細砂は河川堆積である。９層微砂、10層粘土の順で堆積する。

②出土遺物

４・５層は中世の土器が若干出土、８層暗灰色微砂より弥生時代の土器が２点出土した。

③調査結果

地表下0.8mで６層上面で灰褐色粘質土を埋土とする中世の遺構を検出した。遺構は土坑４基である。また地表下1.6m以下に存在する８層で出土した弥生時代の遺物も生活層の存在を示している。

第11調査区

①基本層序

耕土以下２～４層は砂質土、５～９層は粘質土またはシルトである。

②出土遺物

８層の灰色粘土から羽釜、瓦器、土師皿の破片をはじめとする中世遺物が出土した。

③調査結果

この調査区では、地表下1.6m以下に明確な中世の包含層が存在する。

第12調査区

①基本層序

耕土以下２～４層は砂質土、５・６層は粘質土、７層以下は粘土である。

②出土遺物

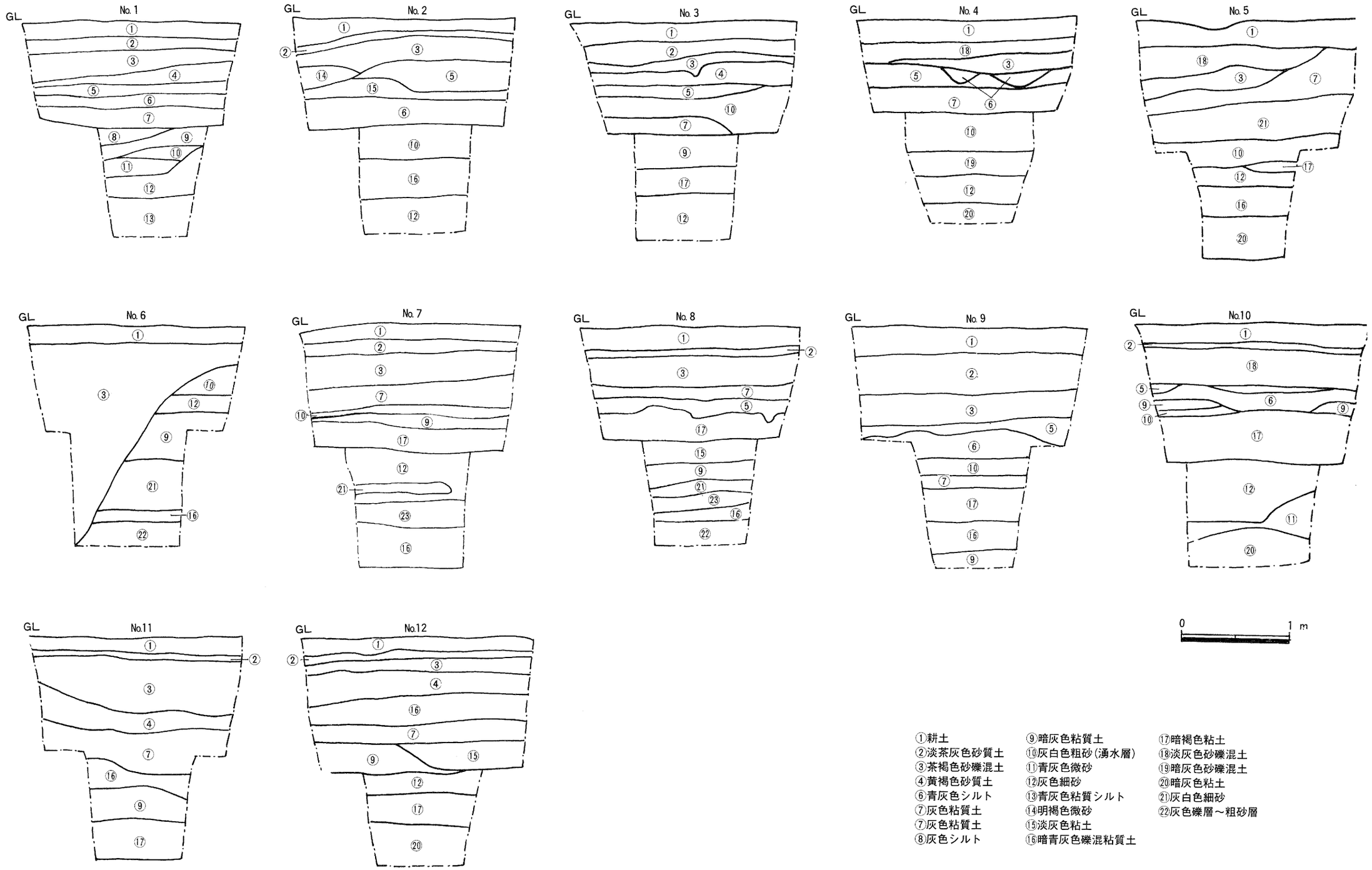
地表下1.0mで須恵器片が、８層で弥生時代の土器片が出土した。

③調査結果

地表下１ｍの７層上面で落ちこみを検出した。また、地表下1.4～1.6mの８層では、弥生時代の遺構の存在は確認できなかった。

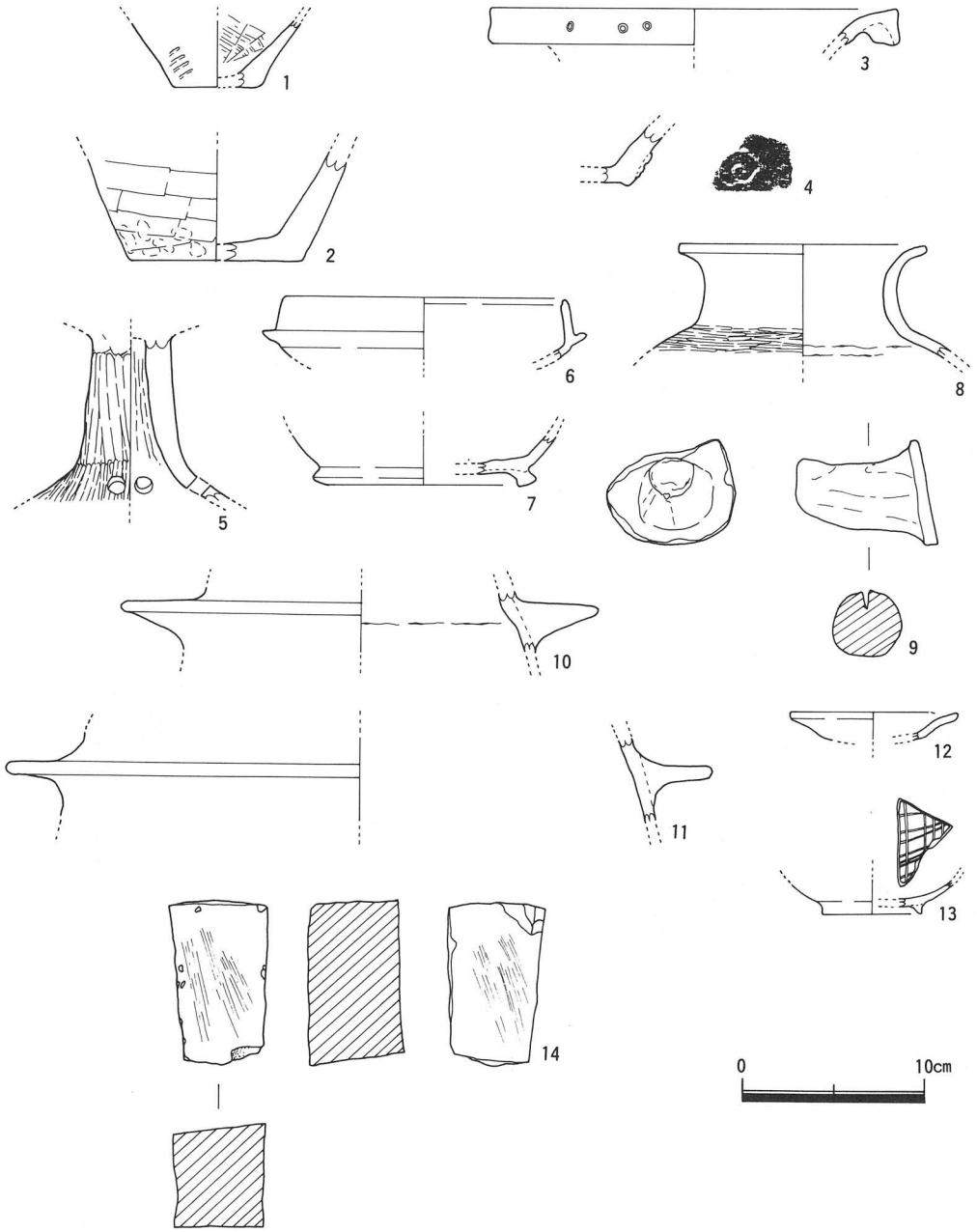
３．まとめ

顕著に遺構または遺物が出土した調査区は５・７・10・11の各調査区であり、１～４・６の調査区は湧水が多く、河川の堆積と思われる砂が堆積している。８・９の調査区は、粘土層が湿地状を呈していた。このようなことから当該事業予定地の北側は、河川または氾濫原であったと考えられる。また西側は湿地であり、遺物の包含状況より遺跡立地の可能性は事業計画地の南東側であると考えられる。



①耕土
②淡茶灰色砂質土
③茶褐色砂礫混土
④黄褐色砂質土
⑥青灰色シルト
⑦灰色粘質土
⑦灰色粘質土
⑧灰色シルト
⑨暗灰色粘質土
⑩灰白色粗砂(湧水層)
⑪青灰色微砂
⑫灰色細砂
⑬青灰色粘質シルト
⑭明褐色微砂
⑮淡灰色粘土
⑯暗青灰色礫混粘質土
⑰暗褐色粘土
⑱淡灰色砂礫混土
⑲暗灰色砂礫混土
⑳暗灰色粘土
㉑灰白色細砂
㉒灰色礫層～粗砂層

第17図　各グリット土層断面図（1／40）



第18図　出土遺物実制図（1／4）

4．中田遺跡(01-221)の調査

調査地　　中田３丁目、八尾木北１丁目地内

調査期間　　平成元年10月31日

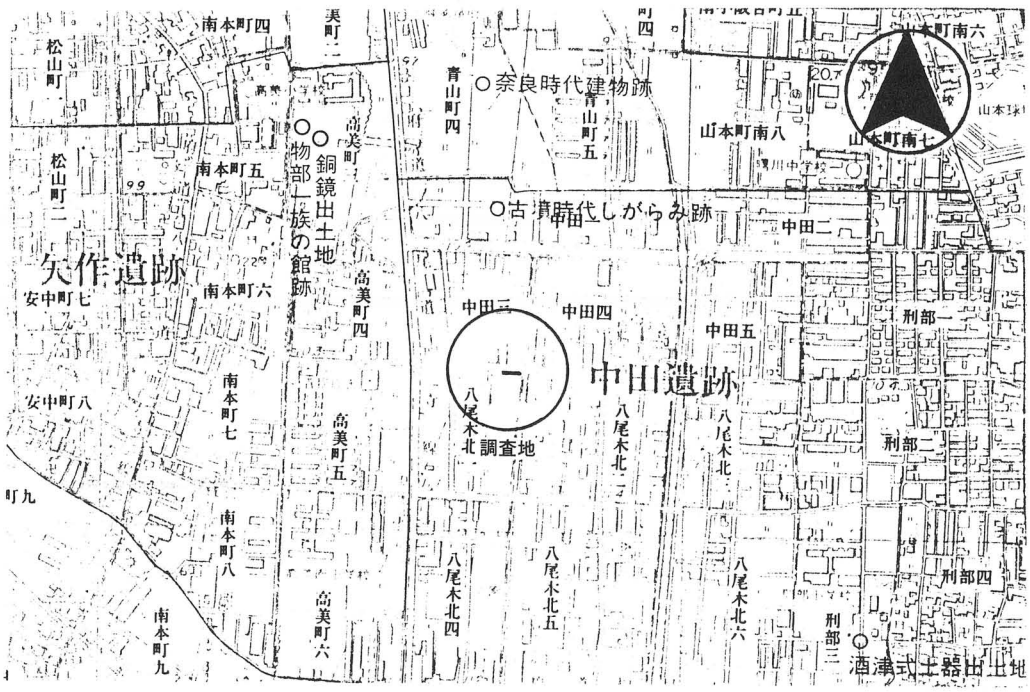
1．調査概要

本調査は、下水道立坑掘削工事に伴って実施した遺構確認調査である。本調査地周辺では、弥生から古墳時代にかけての遺構の存在が明らかにされている。

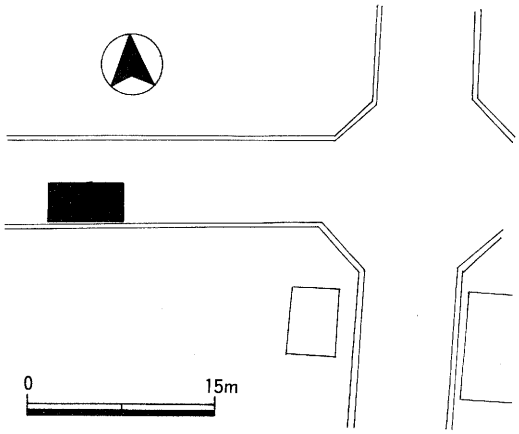
本調査は、立坑において地表下約1.3m迄機械掘削を行ない、以下0.7mを手掘りによる掘削・精査を行なった。調査の結果GL-1.5mで６世紀代の遺物を含む土坑を一基検出した。土坑内の埋土は４層に分層され、埋土内３層目の黒灰色粘質土には多量の炭化物を含んでいた。

2．まとめ

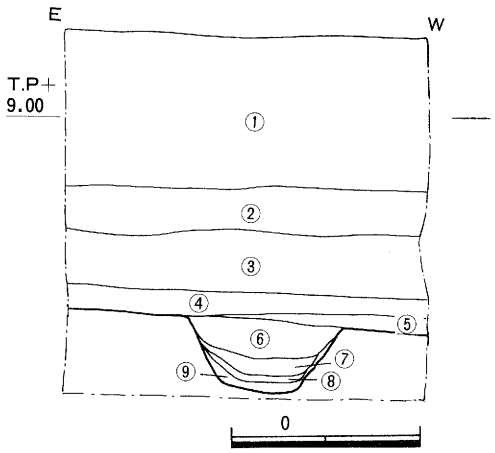
本調査では、古墳時代後期の遺物を含む遺構を検出したが、図化できる遺物は少なかった。しかし、古墳時代の集落の存在は明らかである。



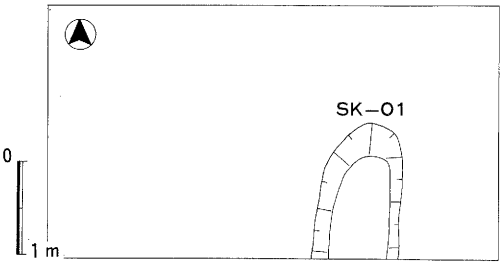
第19図　調査地周辺図(１／13000)



第20図　調査区設定図(1／600)

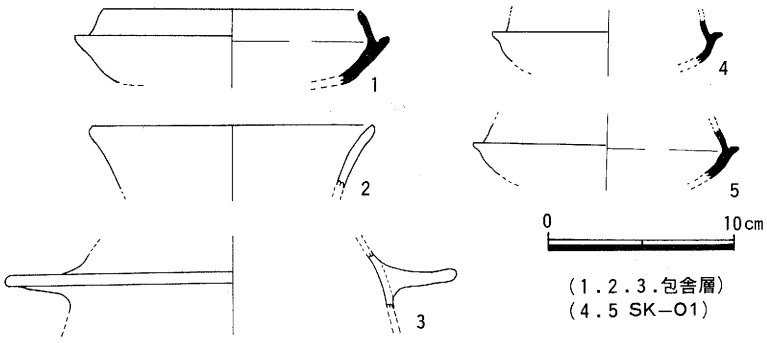


第21図　土層断面図(1／40)



第22図　調査区平面図(1／60)

①盛土
②旧耕土
③灰褐色粘質土
④灰青色粘土
⑤茶灰色粘土
⑥暗茶灰色粘土
⑦灰色粘土
⑧黒灰色粘質土
⑨暗灰色粘質シルト



第23図　出土遺物実測図(1／4)

5．郡川遺跡(半銅池)の調査

調査地　　黒谷875-1他

調査期間　　平成元年11月20日～11月21日

1．調査概要

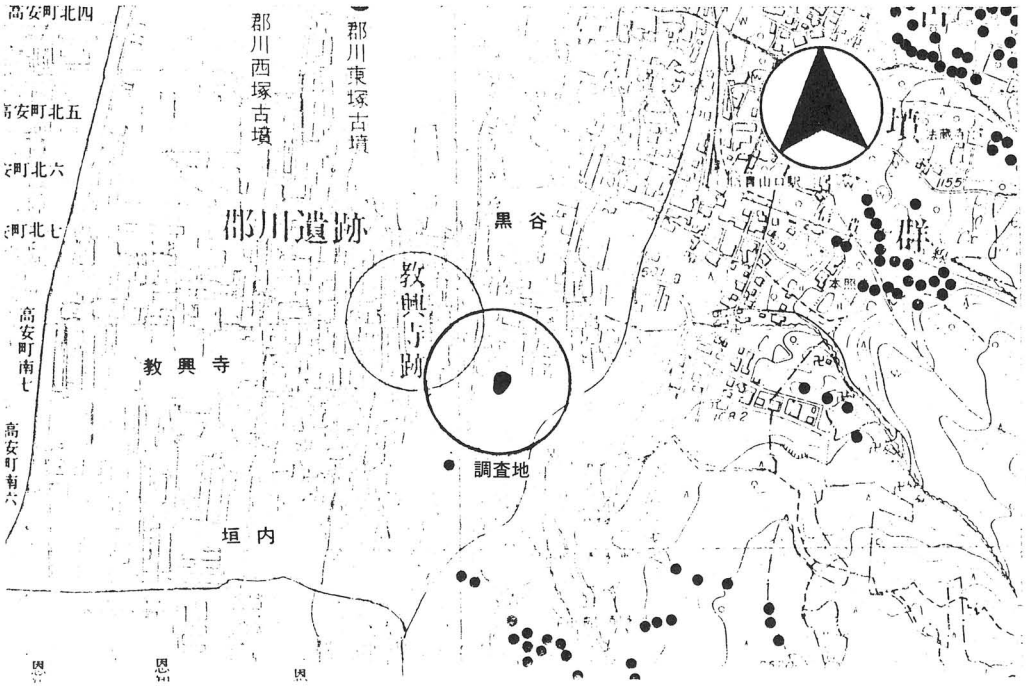
本調査は、黒谷財産区財産処分に先だって実施した遺構確認調査である。当該地は、八尾市郡川遺跡の一画にあり、教興寺跡に隣接している。調査は２ｍ×２ｍの調査区を敷地内３箇所に設定し、上約３ｍを機械と手掘りを併用して調査を実施、断面観察を行なった。その結果、No１、No２、No３の各調査区においては、顕著な遺構を確認できなかったが若干の遺物の出土をみた。

2．出土遺物

No１．近世の陶器片若干

No２．近世すり鉢の破片１点

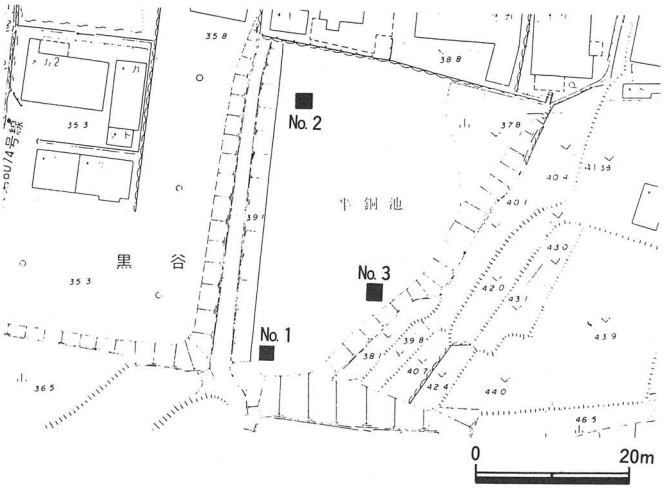
No３．漆器椀、土釜片、須恵器片等の古墳時代、鎌倉時代の遺物若干。



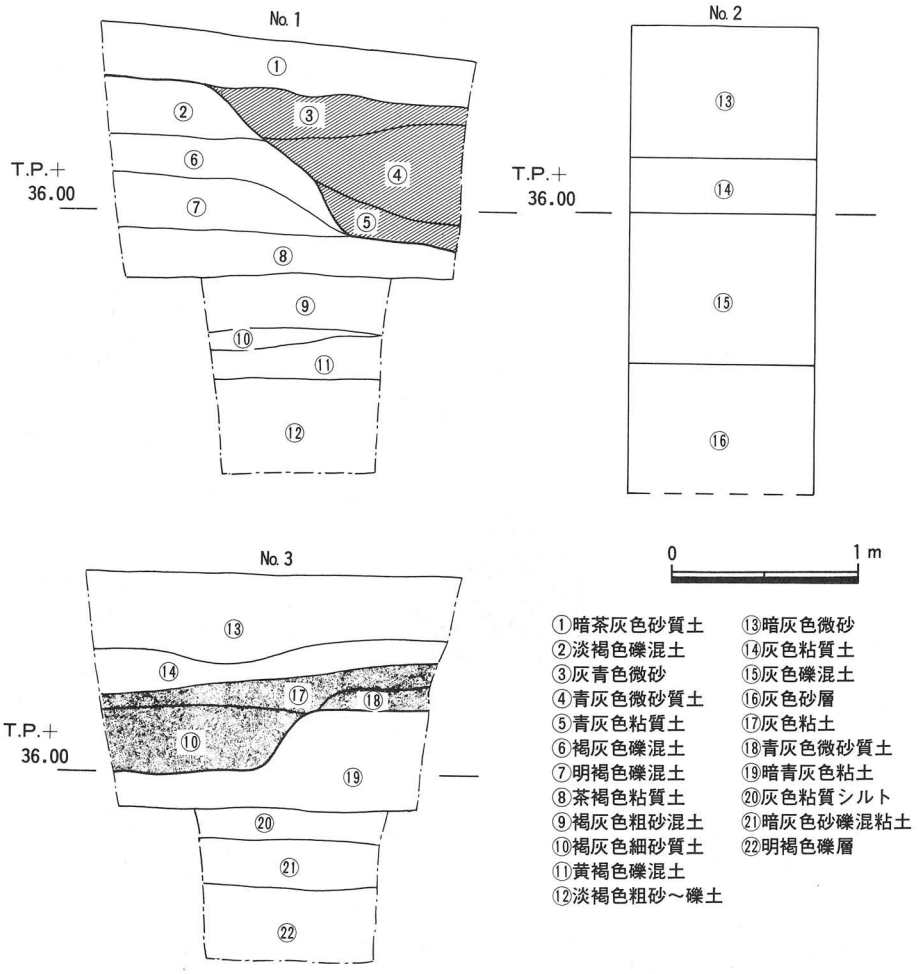
第24図　調査地周辺図(１／13000)

3．調査結果

当該地は郡川遺跡の領域に含まれているが、谷状の地形となっており、顕著な遺構の存在はないものと思われる。No 3では古墳時代の遺物も出土しているが、地形的に南東方向より流れこんだものと考えられ、中世遺物と混在している。



第25図　調査区設定図（1／1000）



第26図　各グリット土層断面図（1／40）

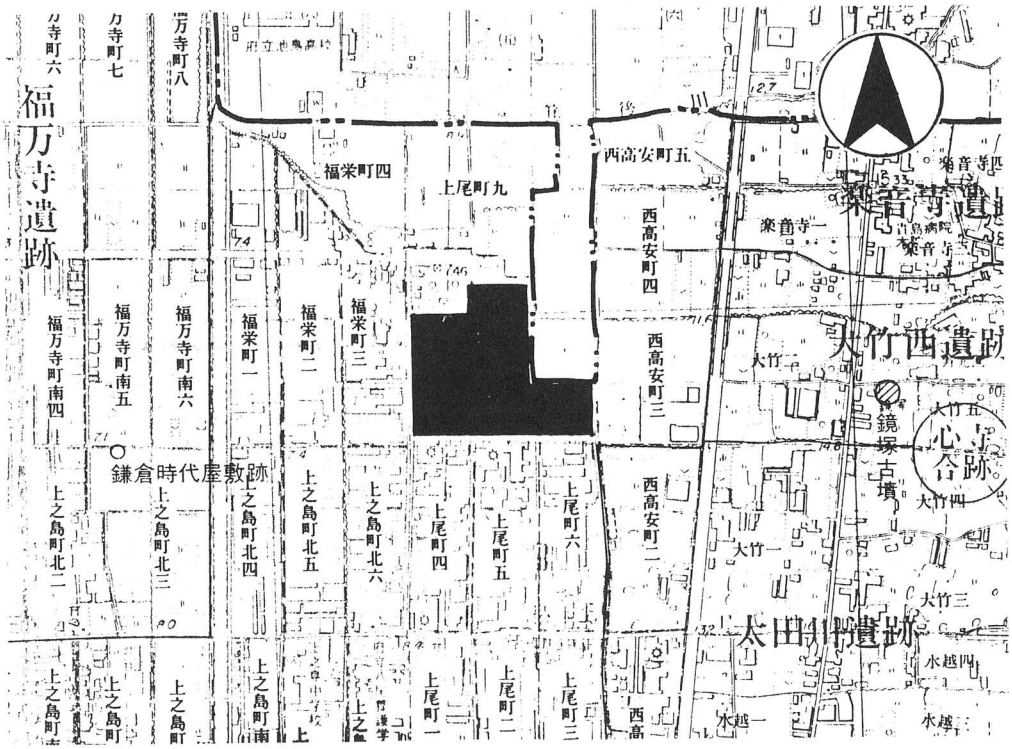
6．大竹西遺跡(89-397)の調査

調査地　　上尾町７丁目20-1他

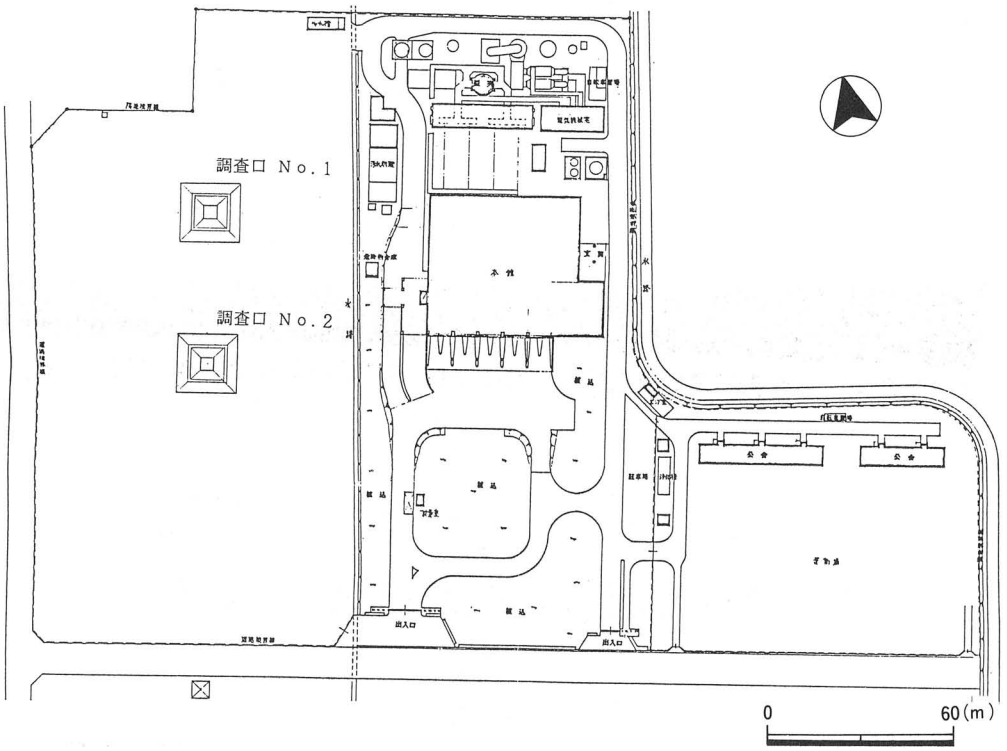
調査期間　　平成元年12月４日～12月27日

1．調査概要

本調査は、大阪市環境事業局の一般廃棄物焼却工場建設に伴い実施した遺構確認調査である。当該地は、八尾市福万寺遺跡、大竹西遺跡、東大阪市池島遺跡に隣接しているが、付近の調査資料はほとんどない状況であった。調査は13×13mの調査区を敷地内２箇所に設定し、上約３mを機械により掘削した後、以下約３mに対して手掘りによる調査を実施した。その結果、南調査区においては、ＧＬより2.7m付近で鎌倉時代の遺物包含層、－５m付近で縄文時代の遺物包含層を確認した。また、北調査区においてはＧＬ－2.9mで古墳時代前期の遺物包含層、－3.6m付近に弥生時代前期～後期の遺物包含層を確認し、ＧＬ－5.2m付近で、縄文時代の遺物包含層を確認した。



第27図　調査地周辺図(１／13000)



第28図　調査区設定図(1／2400)

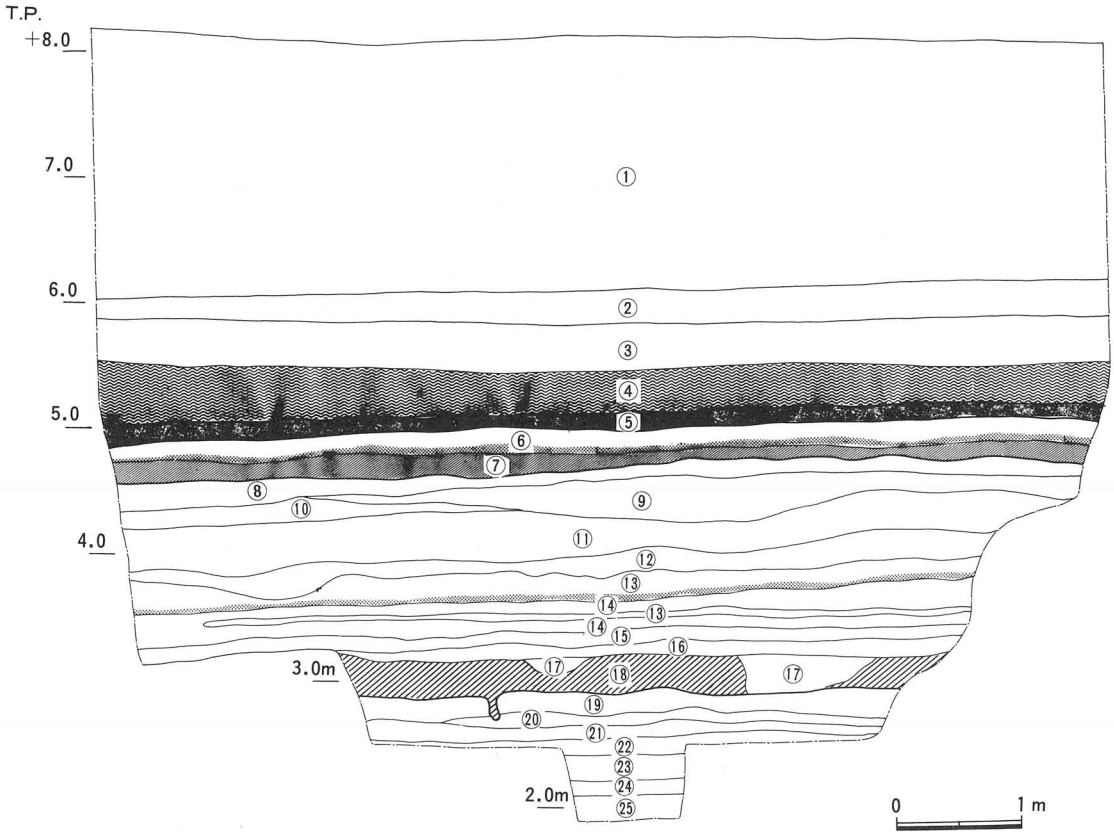
2．出土遺物

鎌倉時代の包含層からは瓦器椀、土師器皿、土釜片を、古墳時代の包含層からは、古式土師器の小型丸底壷、甕、杯等、弥生時代の包含層からは、後期の壷、鉢片、前期の壷片等の弥生式土器、石器、縄文時代の包含層からは、晩期の土器片が出土した。

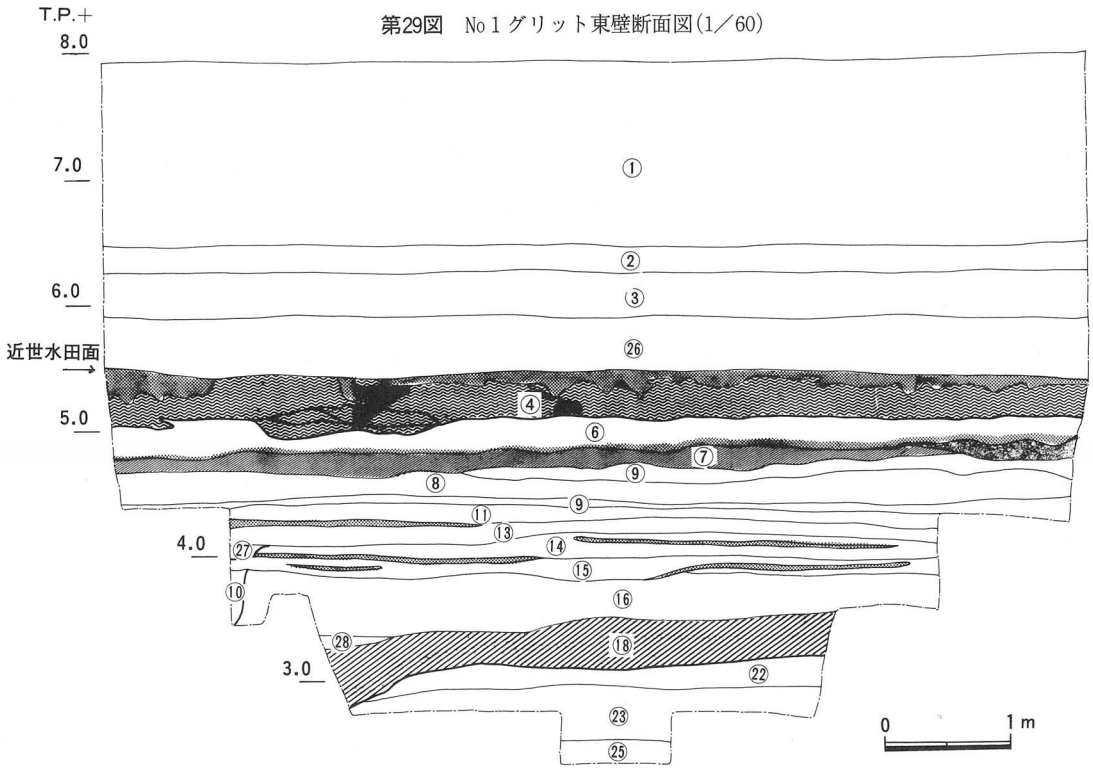
3．調査結果

縄文時代、弥生時代、古墳時代、鎌倉時代の各時代にわたる生活の痕跡を確認した。これと同時代の遺構は、この付近では池島遺跡、大竹西遺跡、福万寺遺跡で確認されており、付近では、八尾学園の調査でも同じ時代の生活遺跡が確認されている。このことから当該地はこの大竹西遺跡の領域に含まれている可能性が高く、その範囲は当該敷地全域に広がるものと考えられる。

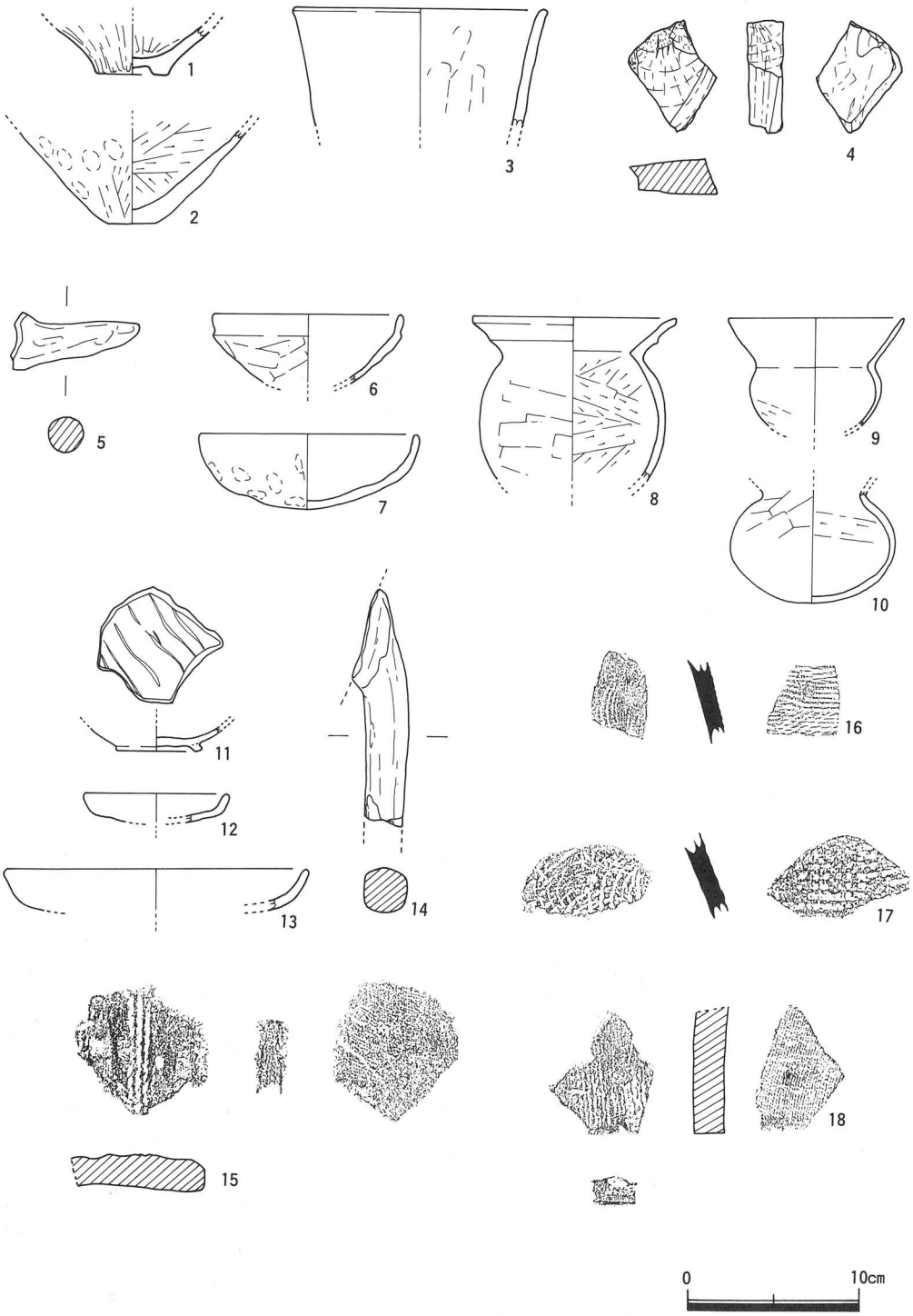
第29、30図土層断面層序　①盛土　②旧耕土　③灰色細砂　④暗青灰色粘土　⑤黄褐色砂礫混粘質土　⑥オリーブ灰色シルト混微砂　⑦青灰色砂礫混粘質シルト　⑧青灰色粘質土　⑨緑灰色シルト　⑩灰白色微砂　⑪オリーブ灰色微砂シルト　⑫緑灰色細砂　⑬暗緑灰色微砂混粘土　⑭暗緑灰色シルト　⑮灰黒色シルト混粘土　⑯黒灰色細砂　⑰灰黒色粘質土　⑱黒灰色細砂混粘質土　⑲オリーブ灰色微砂　⑳灰色微砂　㉑灰白色細砂　㉒オリーブ灰色粘質シルト　㉓淡灰色粘土　㉔淡緑灰色シルト　㉕灰白色細砂～微砂　㉖淡緑灰色粘土　㉗茶灰色微砂　㉘黒灰色砂礫混粘土



第29図　No 1 グリット東壁断面図(1／60)



第30図　No 2 グリット東壁断面図(1／60)



第31図　出土遺物実測図（1／4）

7．郡川遺跡(01-399)の調査

調査地　　大字黒谷474番地先

調査期間　　平成２年１月16日

１．調査概要

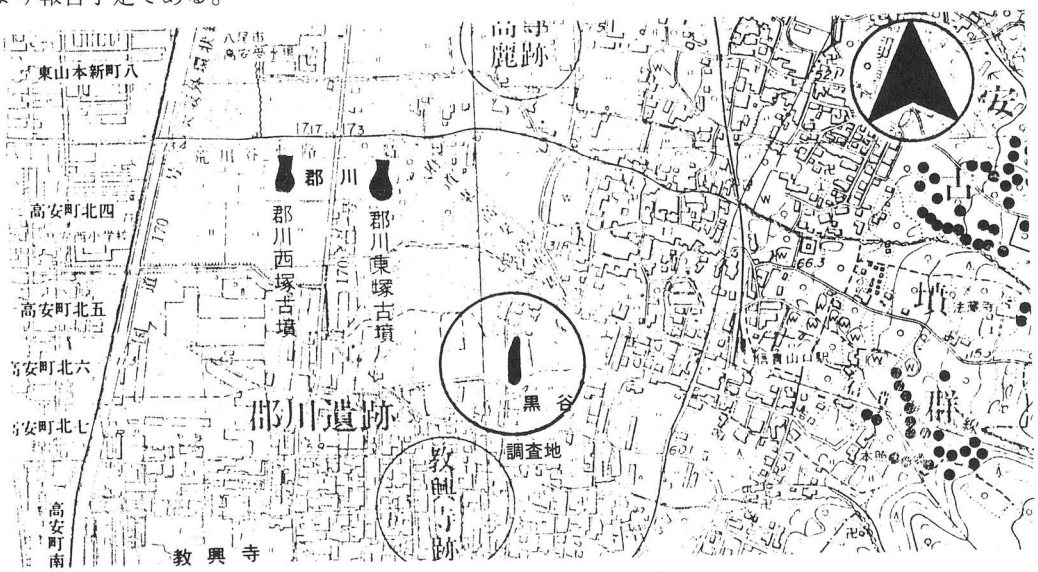
本調査は、重頭池改修工事に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、高安古墳群と総称される高安山西部に位置し、弥生から中世にかけての集落遺構が確認されている。

調査は、施工予定地において５ケ所のグリットを設定し、それぞれ地表下1.0ｍまで機械掘削した後、以下GL－２ｍまでを機械と人力を併用した掘削・精査を行なった。

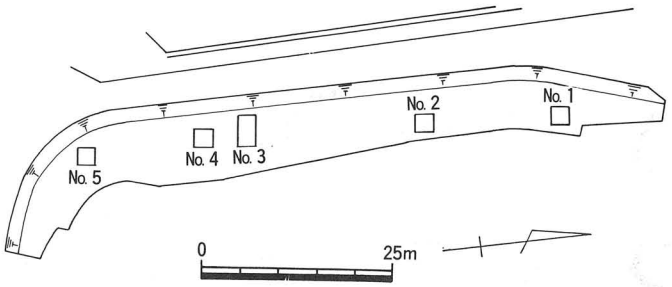
調査の結果、No２とNo３のグリットにおいて古墳時代の須恵器、土師器甕、羽釜等を包蔵する土層を確認した。これらの包含層直下には大小さまざまの礫が堆積しており、本調査においては状況からみて遺構検出までには至らなかった。

２．まとめ

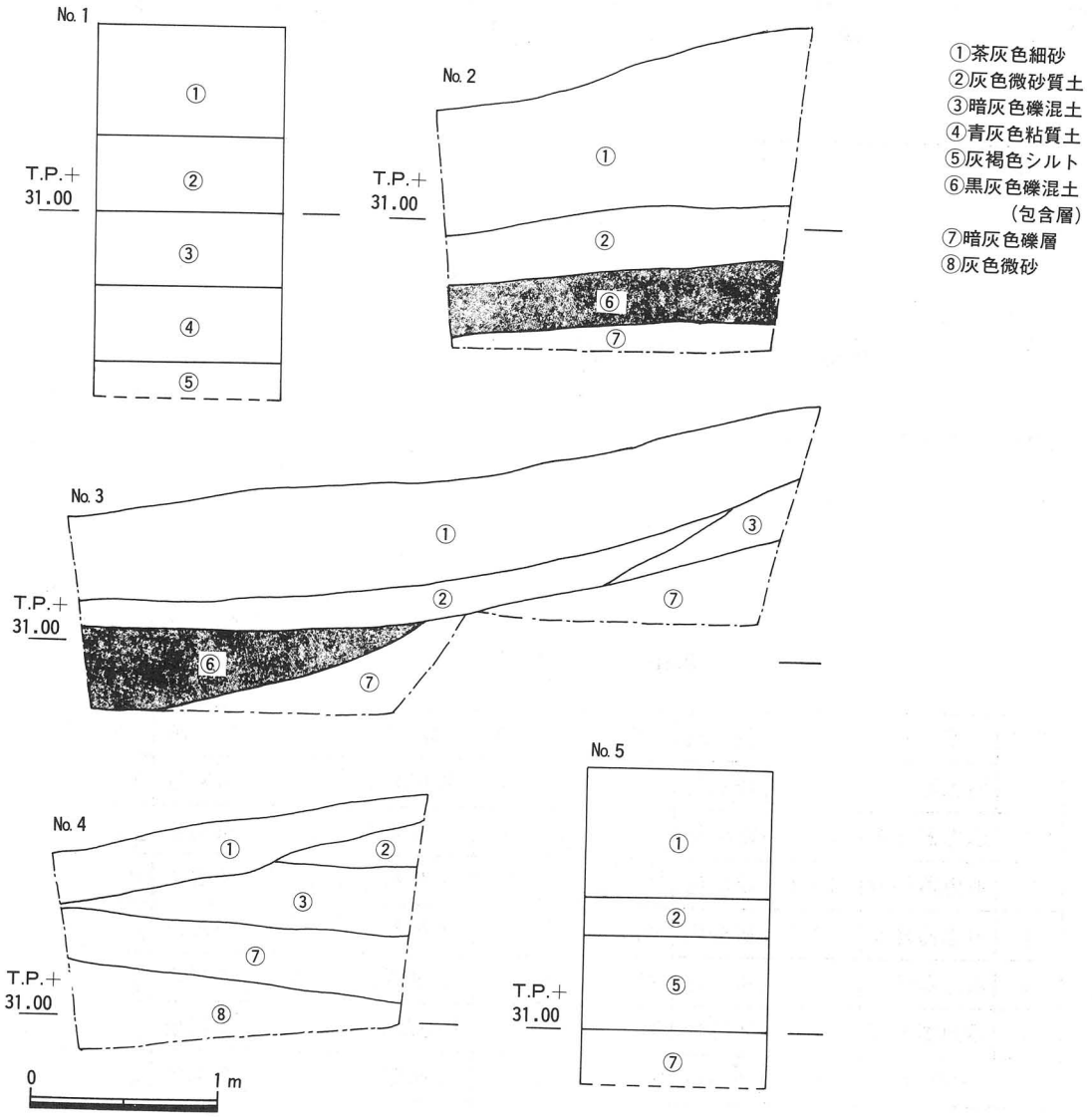
本調査地東側では、前年度に当八尾市教育委員会で発掘調査しており、その出土遺物と今回の包含層出土遺物の観察の結果、ほぼ同時期のものと思われることから当該地までの古墳時代の集落の拡がりが想定できよう。又、グリット断面観察の結果、本調査地の南側は谷状地形になっていることも確認できた。なお、調査の詳細については、(財) 八尾市文化財調査研究会より報告予定である。



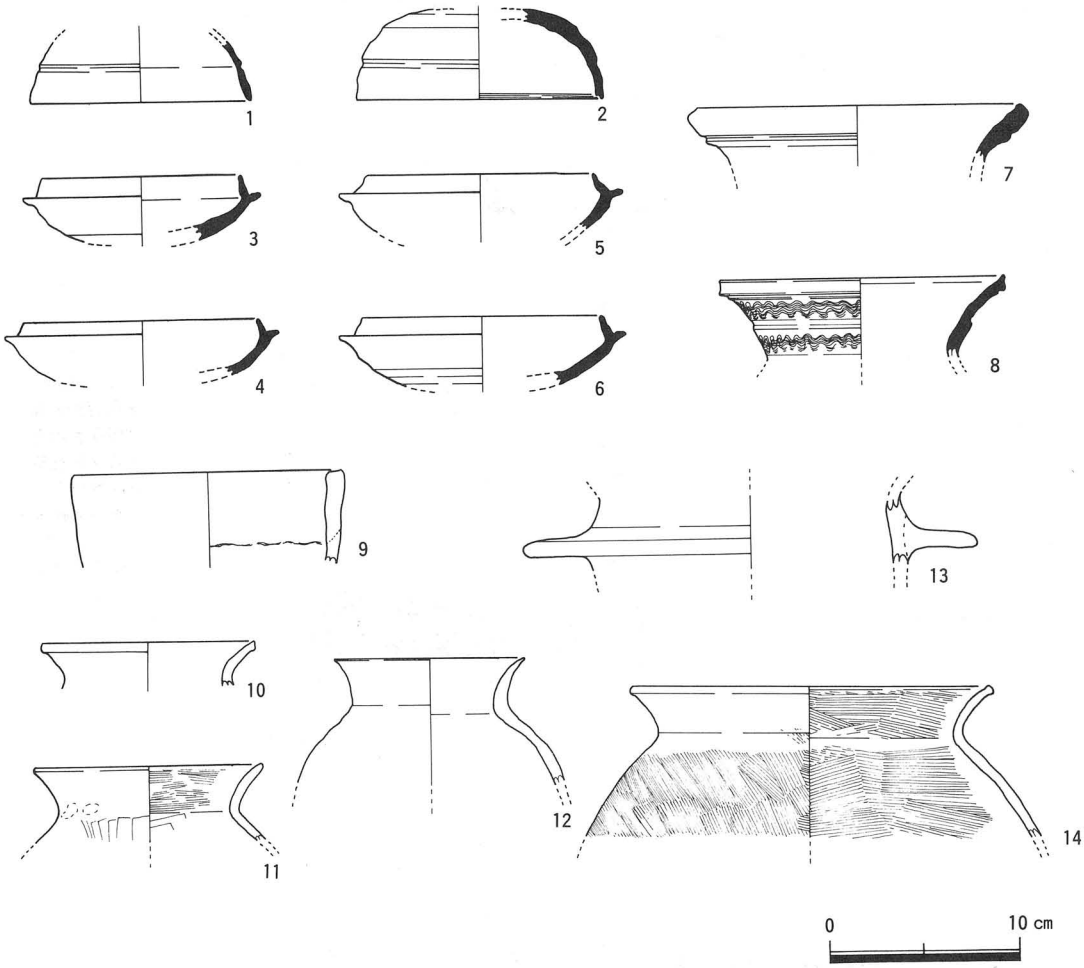
第32図　調査地周辺図(１／13000)



第33図　調査区設定図(1／1000)



第34図　各グリット土層断面図(1／40)



第35図　出土遺物実測図（1／4）

番号	器　種	口　径 (cm)	色　調	胎　土	番号	器　種	口　径 (cm)	色　調	胎　土
1	須恵器杯蓋	11.6	淡灰色	密・0.5～1.0mmの砂礫	8	須恵器甕	15.0	暗灰色	密
2	須恵器杯蓋	13.6	淡灰色	密・0.5～1.0mmの砂礫	9	土師器壷	14.0	茶褐色	0.5～1.0mmの砂礫、長石、石英
3	須恵器杯身	10.4	淡灰色	粗・0.5～5.0mmの砂礫	10	土師器甕	11.0	暗褐色	密・細砂粒
4	須恵器杯身	12.4	灰褐色	密	11	土師器甕	12.0	茶褐色	0.5 ～ 1.0mm砂礫、長石
5	須恵器杯身	11.8	灰　色	密	12	土師器甕	10.0	茶褐色	1.0～2.0mmの砂礫、長石、雲母
6	須恵器杯身	12.4	灰緑色	密	13	土師器羽釜	鍔径24.2	暗褐色	やや粗・1.0～3.0mmの砂礫
7	須恵器甕	16.8	灰白色	密	14	土師器甕	18.8	暗褐色	0.5～1.0mmの砂礫、長石、石英

表1　出土遺物計測表

井戸検出状況

井戸枠全景

井戸枠外部状況

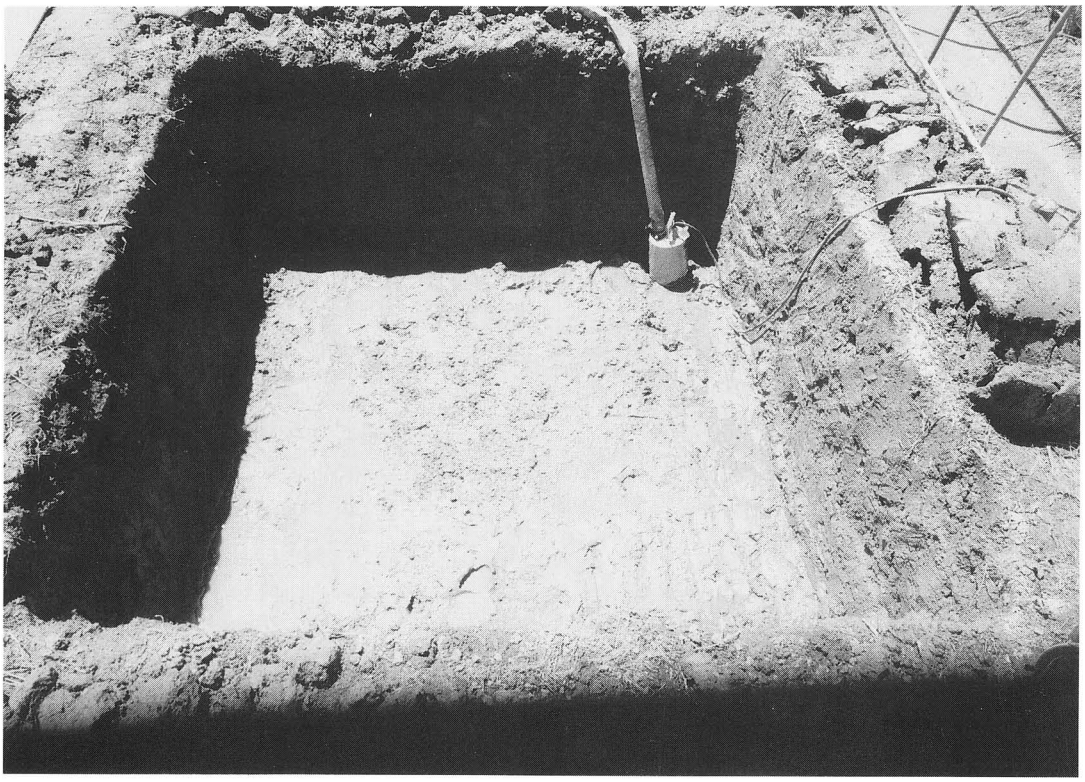
井戸枠内遺物出土状況

E地区トレンチ全景

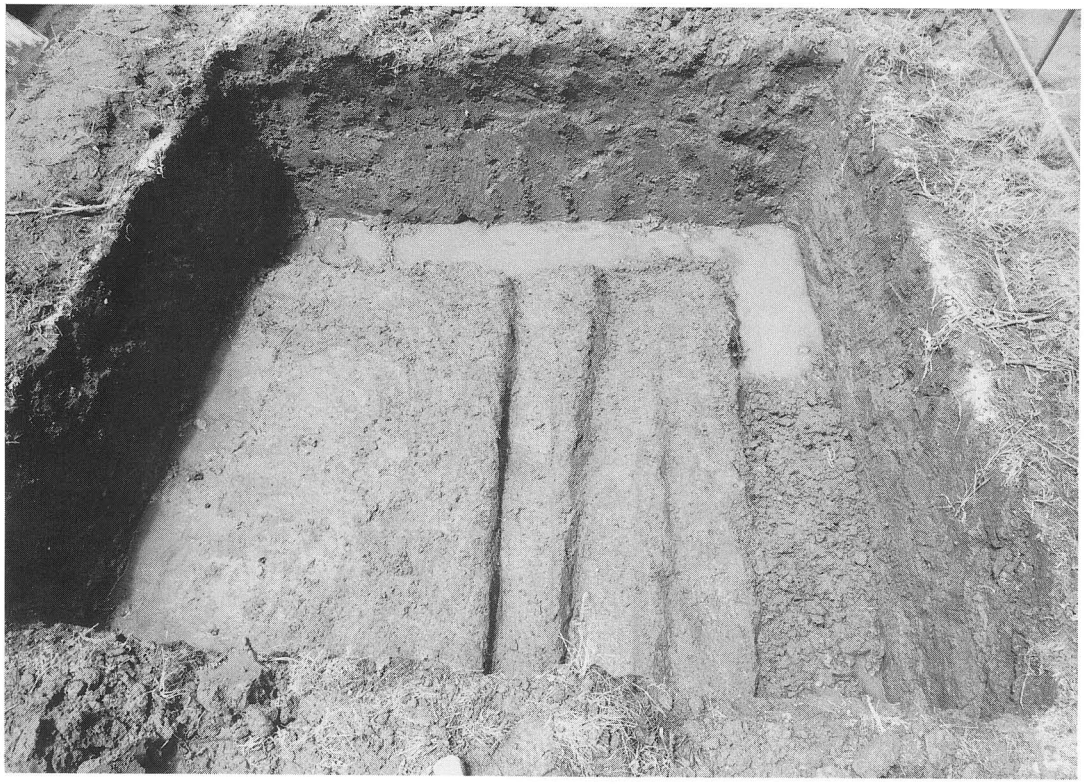
C地区トレンチ全景

No.1 グリット

No.2 グリット

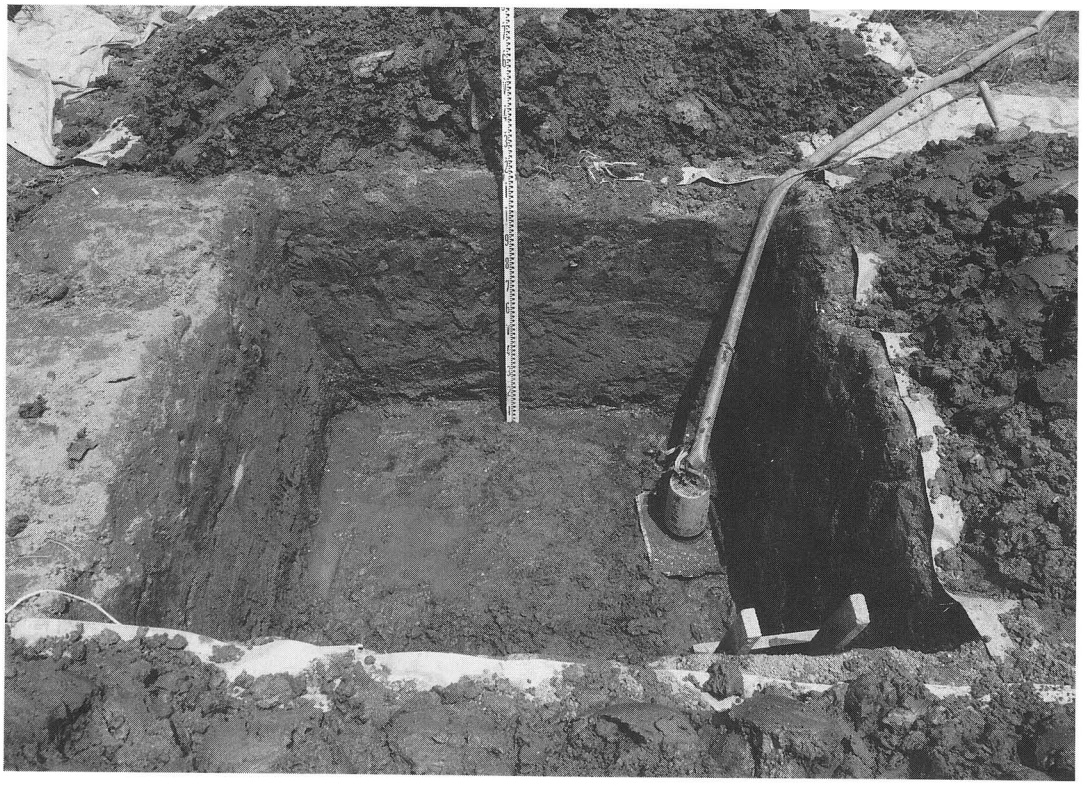


No. 4 グリット

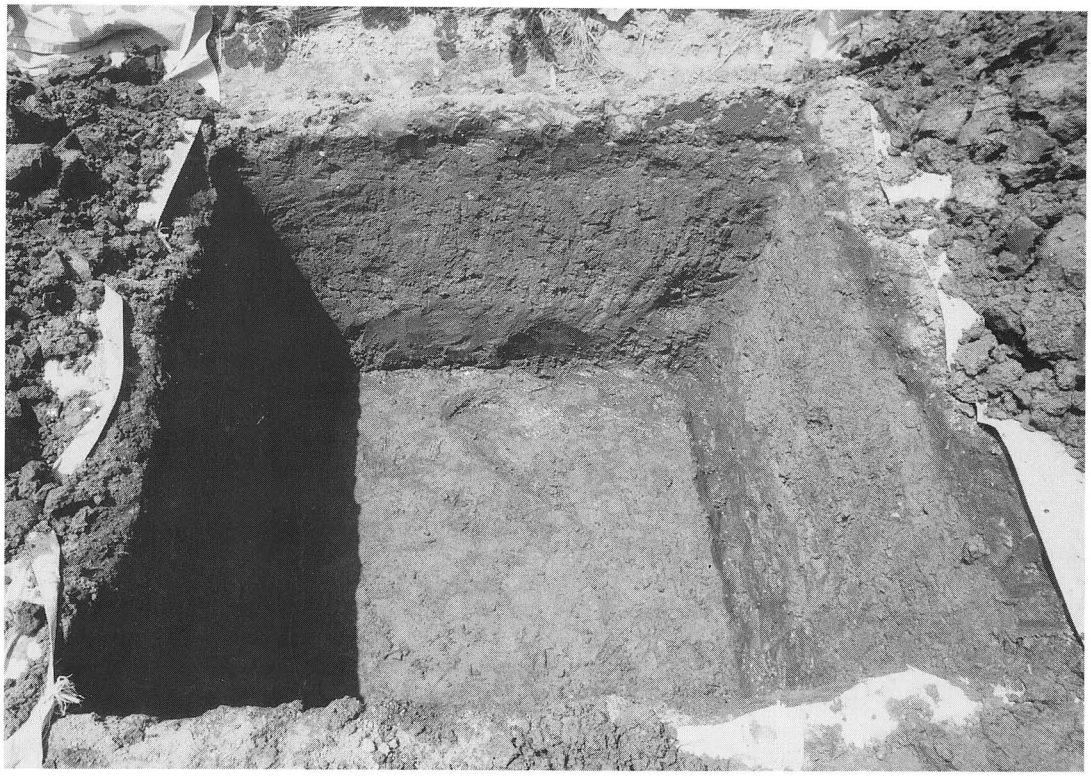


No. 4 グリット

No. 4 グリット



No. 5 グリット



No. 7 グリット

No. 8 グリット

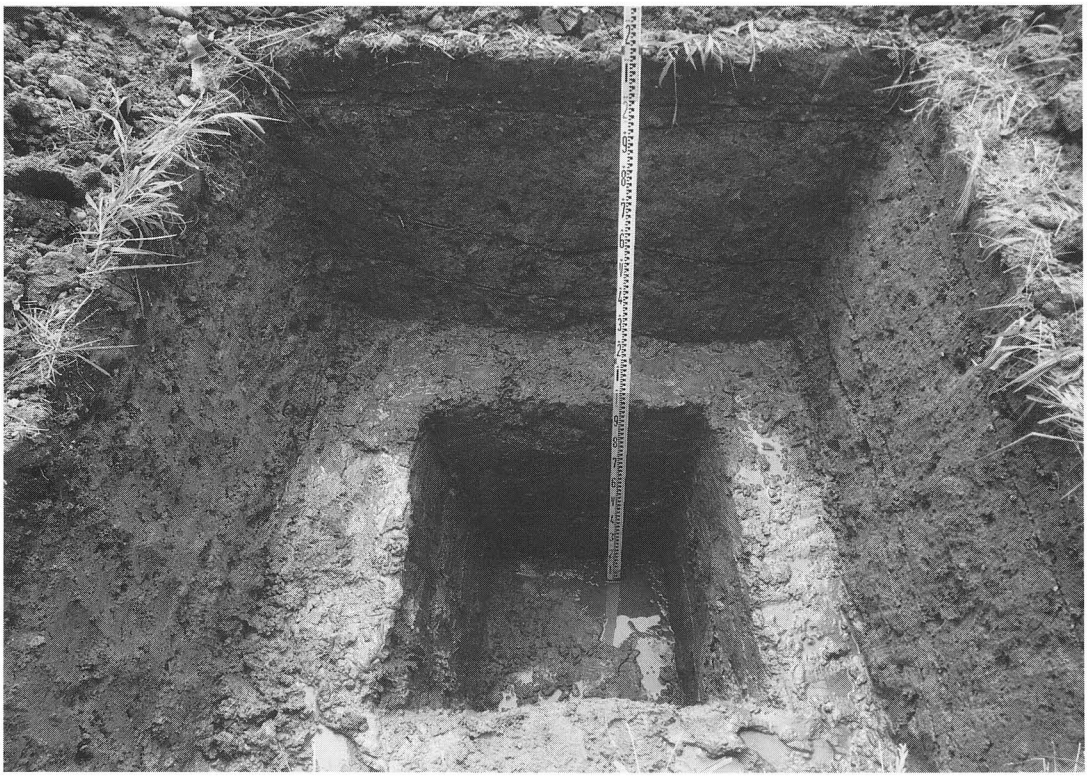
No. 8 グリット

No. 9 グリット

No.10グリット

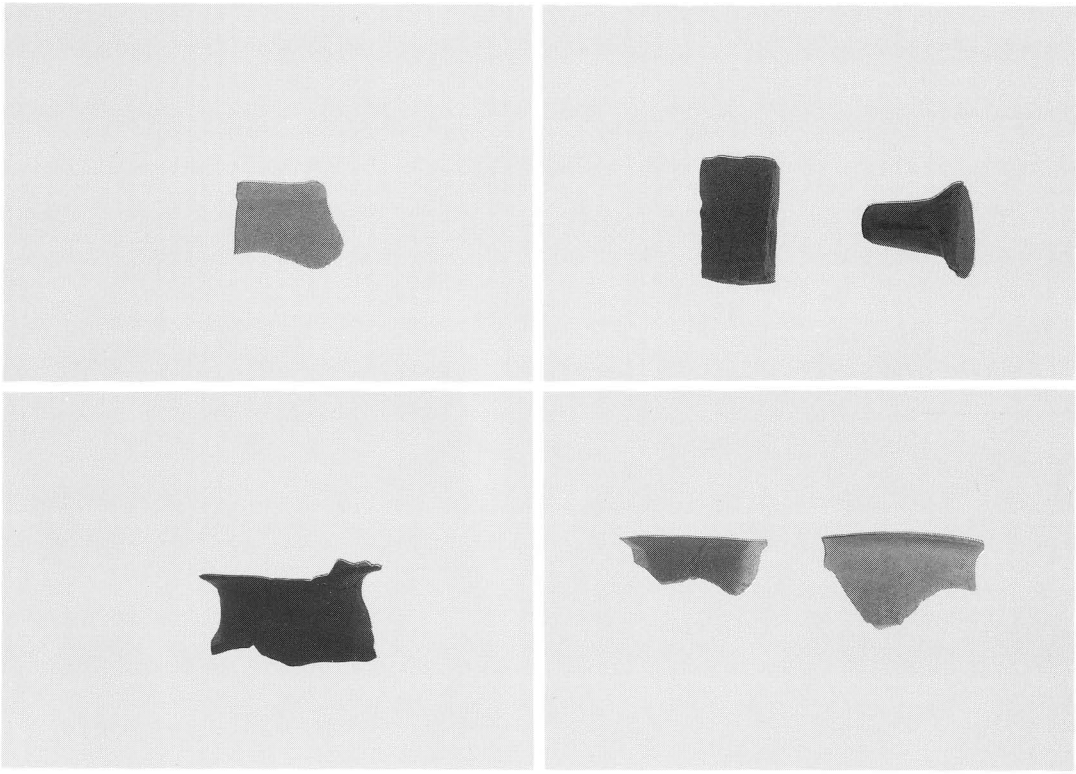
No.10グリット

No.11グリット



No.11グリット

No.12グリット

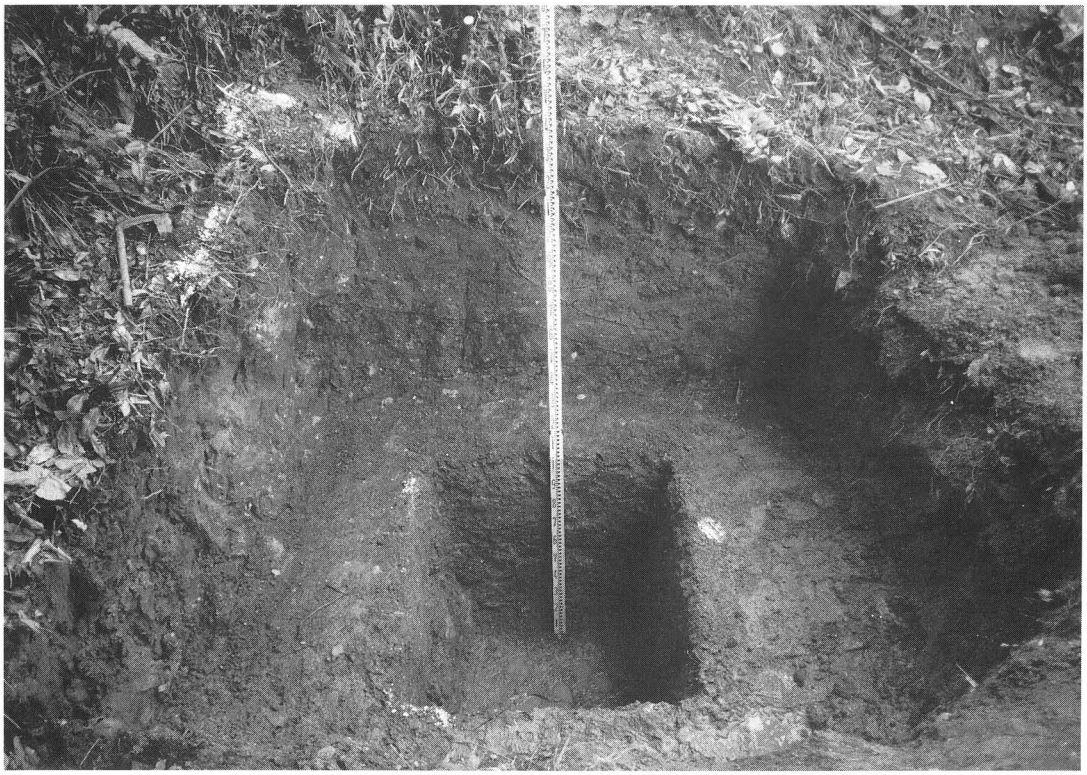


出土遺物

土坑検出状況 東から

土坑断面 北から

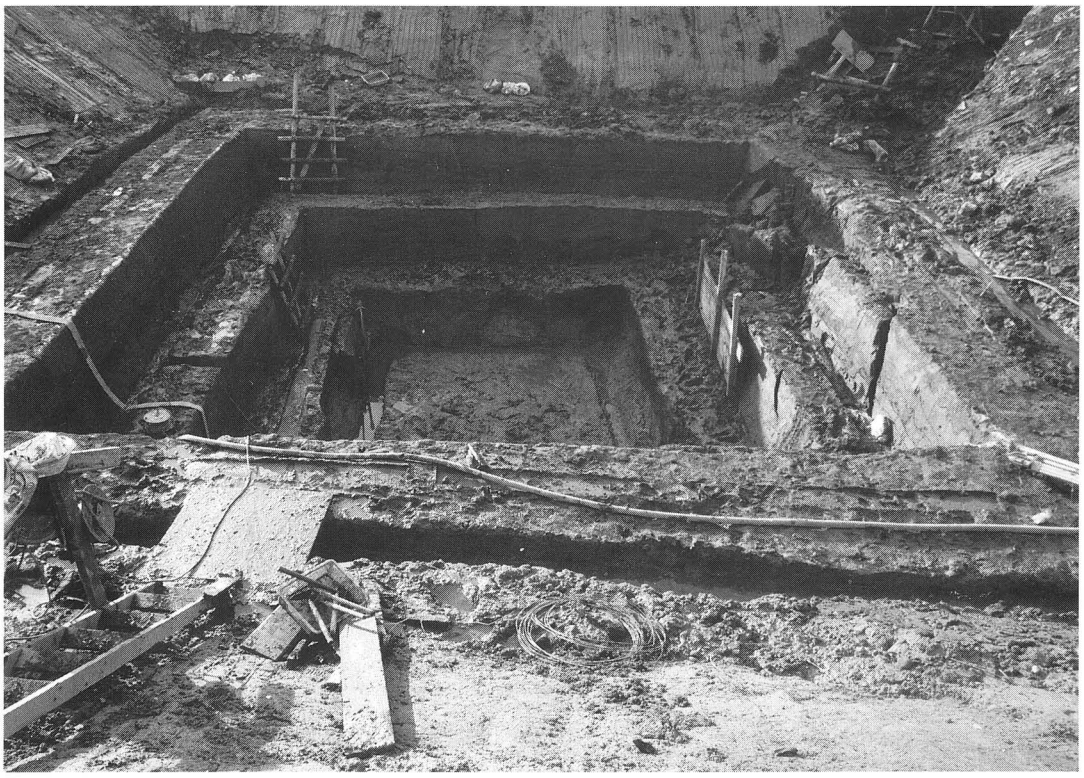
図版13　郡川遺跡（半銅池）



No.1 グリット

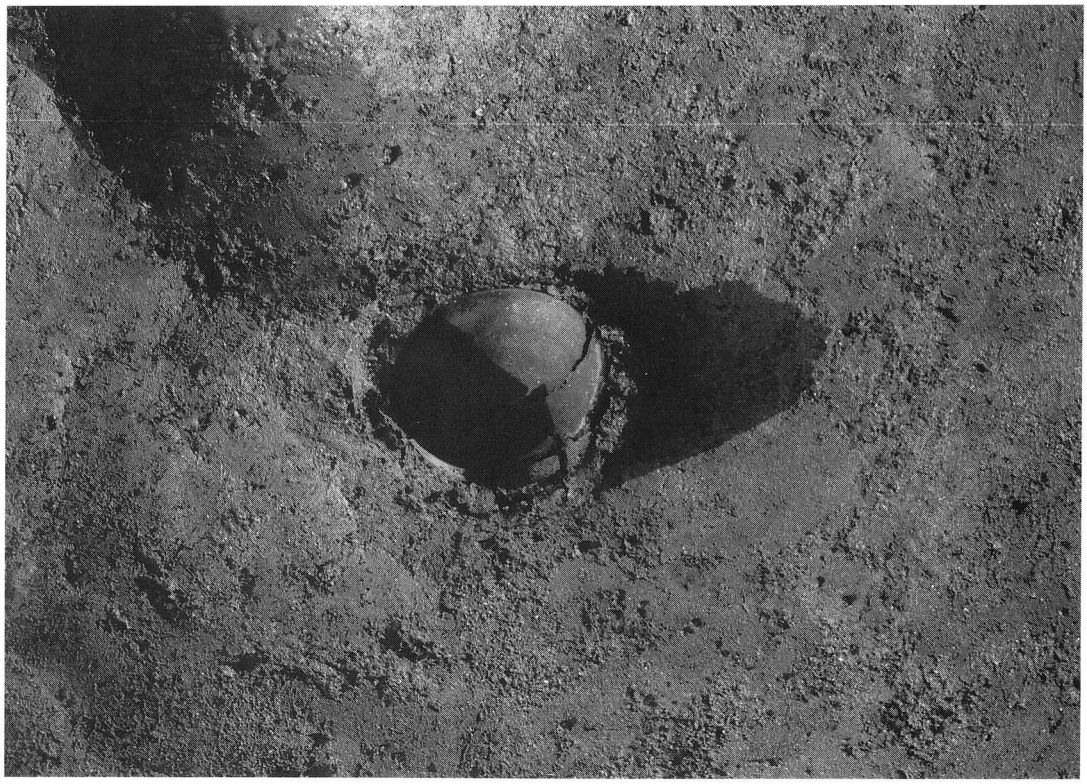
No.3 グリット

No. 1 調査区全景



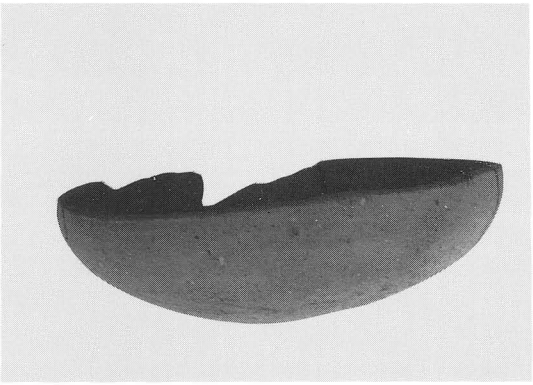
No. 2 調査区全景

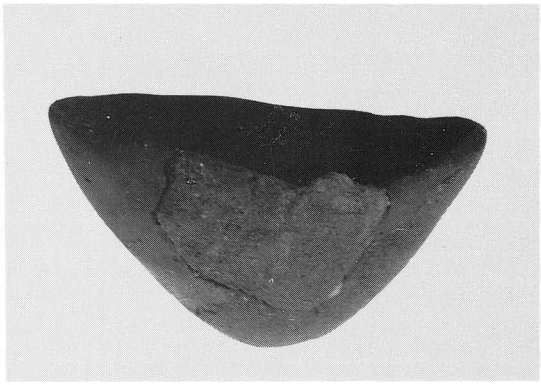
No.1 調査区第1遺構面 東から

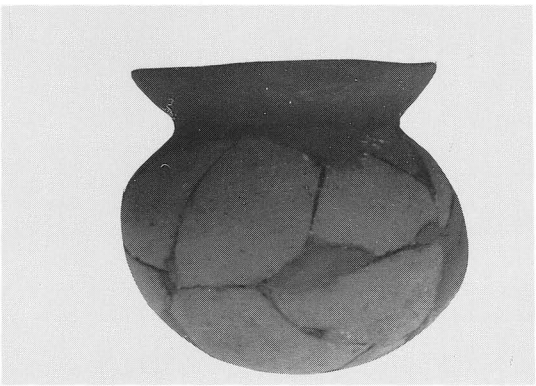


No.1 調査区 遺物出土状況

図版16　大竹西遺跡（89―397）







八尾市文化財調査報告21
平成元年度公共事業

八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告書Ⅱ

発行日　1990年3月
発行所　八尾市教育委員会
印　刷　近畿印刷センター